

**フジカラー**  
サービス

カラー写真ならもっときれい！



現像とカラープリントはお近くのカメラ店で  
〈フジカラーサービス〉とご指定ください

**フジカラーの純正現像**

フジカラー N100  
フジカラー R100  
フジカラーシネ 8mm・16mm  
トッキー映画(磁性体塗布加工)  
フジマグネオストライプ  
小型映画フィルムの複製  
フジシネコピー

**美しいカラープリント**

フジネガカラープリント  
フジポジカラープリント  
フジダイカラープリント  
フジ G カラープリント  
フジネガカラースライド  
フジポジカラースライド

**フジカラーの総合現像所**

**株式会社 フジカラーサービス**

札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福岡

私のことば 「異なるルール解釈を正せ」  
……ヘルム・トルカ……(1)

日独国際親善試合後半戦観戦記特集

男子第8戦(西独17—10菊松会)……(2)

第9戦(西独19—13全京大)……(2)

今シリーズ成績……(3)

第10戦(西独14—10イーグルス)……(4)

第11戦(西独19—11全静岡)……(5)

第12戦(西独24—16桜友会)……(6)

第13戦(西独13—23全日本)……(7)

女子第7戦(西独11—17田村紡)……(7)

第8戦(西独13—10大洋デパート)……(8)

第9戦(西独9—8全大阪)……(9)

第10戦(西独13—4全静岡)……(9)

第11戦(西独7—8全日本)……(10)

対全日本戦技術評……荒川清美……(11)

前半戦技術評……(12)

球界パトロール……(14)

西ドイツ戦から(写真)……(16)

特別座談会 日独戦を顧みて……(19)

デュエル選手訪問……(24)

フランスの技術研究(5)……(26)

日本ハンドボール界の課題(5)……(28)

公認コーチ講習会おわる……(29)

各地の記録……(31)

地方協会告知板……(32)

編集後記……(32)

(注) 時評と思いつくまは本号休載

表紙写真 日独国際親善ハンドボール  
最終戦・全日本—西ドイツ  
全日本は圧倒的な強みを見せ多  
彩な攻撃で一方的に西ドイツを  
破った。  
(9月27日・駒沢体育館で)

われわれ西ドイツのハンドボール関係者は、交流のたびに腕をあげていく日本チームの力に驚嘆していました。今回、幸運にも日本を訪れることが出来、日本ハンドボール界の実情を直接見聞することができたのは、まことに得がたい経験であったと同時に、日本チームの進歩の秘密を知ることが出来ました。

情熱的な指導者、研究熱心な選手、礼儀正しい観衆、積極的な報道関係者……。われわれは今度の来日で訪れた各地で例外なくこうした人々に出会いました。

ハンドボールが発展するためには、いくつかの力が合わされなければなりません。日本がこのような努力と態度をつづけるかぎり、必ずや世界でも有数のハンドボール国を完成することができると思っています。

日本のレベルをどう思うか——これは今回もとても多くの人々からたずねられたものでした。卒直に言って私は日本の、特に男子のレベルがこれほど高くなっている

は思いませんでした。その秀れた脚力を活かしたスピードのある攻撃は、もっとも近代的な戦法であると思います。また、いかにしたら片手でボールを操作することができるとかという質問もよくうけ

日本ハンドボール界に与える言葉ということですが、何よりいちばん感じたことはルール解釈の食い違いです。ヨーロッパと日本が遠隔の地であるからといってこれはすまされるものではなく、選手たちもこ

私のことば

異なるルール解釈を正せ



西ドイツ選手団監督

ヘルム・トルカ (談)

ましたが、これは握力と手首を強くする以外にありません。西ドイツ選手はもちろ

ん、ヨーロッパ選手も徹底して指の力を強める練習をしているだけで、他にひみつはありません。

れには同意見でした。

大会を運営していく上のローカル・ルール(例えばヨーロッパ各国はほとんど前半サイドの交替と同時に選手席も代わり(ます)はさしつかえない範囲で遠征チーム

はホームチームにしたがいですが、競技の正常な進行のためのルールは世界のどこへ行っても同じでなければなりません。もっともストーリーリングなど国際的にも統一見解がとれぬ問題は少くないのですが……。苦言をもう一つ。男女とも体格の差をカバーしようとするせいかラフなプレーが見られたのは残念です。ラフ・プレーは国際的な流行と思いますが、日本がそうした風潮に染まりつつあることは遺憾です。われわれは母国に帰って、ゆっくりと日本遠征の楽しい思い出を振り返ろうと思っていますが、どうか日本の皆さんも今回の交流を何時までも忘れないで下さい。スポーツというものはそうしたものなのです。これほど美しい結びつきは他にないのです。日本ハンドボール界の発展と皆さまの御多幸を祈りつつ……。 (文責・編集部。この一文はトルカ氏の来日中の談話をまとめたものです)





てポストを使い。パスはよく通っていたが、キャッチミスやラインクロスも多く、もう一つ「これはすごい」というプレーはなかった。また完全にボールを握っているもの、それを生かしたトリックプレー、トリックパスもなかったし、シュートもポストもポストシュートははずしたりして、どことなく鋭さがなかった。やや予想外であったといえる。戦術的にはメンドゥハやグリーンバルドがボールをまわすだけで幾度かチャンスがあってもロングシュートをしなかったのは不思議であった。それに比べて全京大の竹口・山口が少ないチャンスにロングシュートを決めていたのは対称的であった。しかし、グリーンバルドの手のきいたスピードある7Mスローはすごい、という感じをうけた。今一つ残念なことは、西独でも超一流のキーパーであるデュエルが病欠場したことである。矢張りケッセマイヤーでは国際試合としてもたりなかった。

芝浦工大戦に最も強く感じたことだが、日本のハンドボールの特徴は西独には見られないプレーの機敏さという点である。ボールまわしからのフォーメーションにしても、西独はボールだけがまわって、スピード感が感じられないのに対して、日本の動きはその一つ一つがよしあしは別にして何とな

く流れがあつて、一つのリズムカクを感じた。日本が体力的に「小さい」というハンディを補うためには、「走り」以外にはないだろうが、この補っている部分が補う意味以上に日本の長所となっているように思う。

全京大が善戦した理由の一つに、全京大の捨て身の思い切ったプレーの続出だったこと。それと西独が身長も充分で、スピードもあり、文句なく入るケースでもシュートをちゆうちよしてポストにパスし、それがミスをよんで反撃されるといった点が多かったことである。

それは彼等が西ノ北欧での試合では、ロングシュートもあれほど余裕をもって打つことはできないのであろう。故により正確なポストプレーをねらい、それを中心にして練習をつんでいるためだと思ふ。日本へ来てかりにシュートを打てるチャンスがあつても、矢張りいつもやっていないプレーはすぐにはむずかしいのであろう。

それを証明しているのはメンダツハのロングシュートであり、日本に於ける試合でも何も気にかけないように数多くのシュートをし、毎試合多得点をあげていたことである。全京大の健闘を賞しておきたい(小西博喜・京都協合理事)

## 第10戦

# イーグルス、追いつけず

## 体格差と守り疲れが敗因

男子第10戦は23日午後3時30分から大阪府立体育会館で大阪イーグルス対戦。主審・丸岡一清、副審・木村靖弘、鷹見陽平

【大坂イーグルス】	得点	0	0	1	1	4	3	1	0
【大阪イーグルス】	西ドイツ	14	(8)	1	4	3	1	0	0
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						
【大阪イーグルス】	主審	丸岡一清							
【大阪イーグルス】	副審	木村靖弘	鷹見陽平						



さらにつづいて、此の日の当り

試合終了となる。

体力の差というかそれだけでは

【加小渡高山藤山鈴高田大】

16

屋、堀がまたもや、45度からロン

ない。西ドイツが全静岡のクリス

【西セムルカゲンサムル】

(2)

グシュートをかきめて全静岡ついに

クロースからの攻撃になれて、防

【ケデグメトルゴグイクバ】

24

1点リード、観衆は湧いた。この

禦方法を換えたこと、また1点リ

【ヤド】

(3)

間15分全静岡は攻撃だけでなく防

禦方法を換えたこと、また1点リ

【スエル】

(2)

禦においても、西ドイツ得意のサ

イドからの切り込みによるダブル

【ケデグメトルゴグイクバ】

24

ポスト攻撃をゆるさなかった、高

久保(立大出)の好守もあって、一

【スエル】

(2)

方的なゲームとなる。

しかしこれまで鳴りをひそめて

【スエル】

(2)

いた、西ドイツはメンダツハ、ヒ

ルマーを戦列にもどすことにより

【スエル】

(2)

反撃を開始した。例によってロー

リングから、メンダツハの強引な

【スエル】

(2)

ロング、ヒルマー、グリュンバル

トの素早い走り疲れのた全静

岡はついでゆけなかった。G K吉

(2)

田(浜松南高教員)の美技で再三得

点を阻んだが西ドイツの一方的ゲ

【スエル】

(2)

ームとなって9点連続得点されて

【スエル】

(2)

# 第12戦 西ドイツ、復調の10連勝

## 序盤の拙攻たたった桜友会

男子第12戦は25日午後6時30分

から東京・駒沢屋内球技場で東京

【スエル】

(2)

桜友会が対戦。主審・勝繁夫(立

大出)、副審・中沢重夫(芝工大

【スエル】

(2)

出)、岡村昭二(東京教大出) 観

衆約二千四百

【スエル】

(2)

西ドイツ 24 (1113 | 8) 16 桜友会

【スエル】

【スエル】

(2)

記者の目 日本プレーになれ

た西ドイツは『でき

(2)

ることならもう一度全芝工大、全

立大と試合したい』というほど調

(2)

子も自信も上向いている。

この試合でも立ちあがりから余

(2)

裕のある攻撃で前半10分6 | 2と

差をつけ、守ってもすばやい帰陣

(2)

【スエル】

(2)

【スエル】

(2)

【スエル】

(2)

【スエル】

(2)

【スエル】

(2)

【スエル】

(2)

【スエル】

(2)

【スエル】

(2)

【スエル】

(2)

【スエル】

(2)

【スエル】

(2)

【スエル】

(2)

【スエル】

(2)

【スエル】

(2)

【スエル】

(2)

【スエル】

(2)

西ドイツ選手の中ではグルンワ  
ルドの好リードとG Kデュエル  
(後半のみ出場)のプレーが目立  
った。なかでも後半11分山野のシ  
ュートをばんだデュエルの好技  
は味わいがあった。  
デュエルは、その直前山野の好  
判断によるシュートに右肩口を抜  
かれていたのだが、つづけて山野  
がシュートを放つとみるや、瞬間  
右コーナーへの守りを固めた。相  
手のクセを僅かの間につかみとる  
彼の「力」はやはりヨーロッパ屈  
指といわれるにふさわしいものを  
感じさせた(杉山茂・NHK運動  
部)

### 技術評

西日本各地を転戦し  
一週間ぶりに帰京し  
た西ドイツは、強行スケジュール  
にもかかわらず、来日第1、2戦  
にもかわらせず、日本チームのプレ  
イにも慣れたようで、なにか心の  
ゆとり、そして自信をとりもどし  
たように見受けられた。  
果せるかな、ゲームになつて  
も、終始余裕を持つての試合振  
り、スコアの方も常に、セフトテ  
イリードを保ちつつ、そして14名  
のフルメンバーを適宜に交代しな  
がら、何か帰国日の試合に備えて  
チームの調整をしている様な感さ  
えあった。  
西独チームのポストプレーを中

心とした横の変化に対して、桜友  
会は速攻をして早い動き、早いテ  
ンポのパスワークで、ディフェス  
スラインを攪乱し、カットイン又  
は中距離シュートをねらった縦の  
変化で対抗と云うゲーム内容にな  
った。桜友会としては、身長差を  
カバーするには、このねらいは的  
を得ていたとは思ふが、如何んせ  
よこの試合に関しては、特に彼我  
のシュート力の差が余りにも、れ  
き然とし、結局このスコアにあ  
われ、これが勝敗を分けた様に思  
われる。シュートがひ弱過ぎた  
感が強い。と云うことは、体格腕  
力の差と云うよりシュートをする  
態勢タイミングが悪く、いわゆる  
逃げ腰のシュートが多かったこと  
が余計シュートを非力なものにし  
ていた様に見受けられた。  
又早いはげしい動き、そしてパ  
スも大きい西独選手の堅いディフ  
ェンスの前に何かむなしく、から  
回りにしている感があった。  
更に桜友会の攻撃が中央突破と  
云うことに余りにも片寄り過ぎ  
た。もつと入る人入らないは別にし  
てもサイド攻撃をかけるべきであ  
った様に思われる。ポストにして  
もしかり、例えポストにボールが  
通らなくても、ポストに相手が入  
ることによって、ディフェンスを  
下げることにになり、そこで初めて  
ロングのチャンスも生れてこよう  
と云うものである。





ックプレー、ブロックとポストプレーなどを巧みに使い分けるミューラーの優れた個人技と、田村紡バックスの消極的なアタックも手伝って7メートルスローで、加しさらにミルターのロングシュートを許し、しばらくは2点差の試合展開となった。しかし試合も前半の終盤に近づく頃、西ドイツの動きの鈍ったところを田村紡の速攻とパスワークが冴え、渡辺好が両45でブロックを活かしてあげた2点と、再度放った長谷川のロングシュートが見事に決まり、8-4で田村紡が前半をリードした。

前半田村紡4点のリードの陰には、ゴールキーパー渡辺の好守と守備における渡辺の好リードも見逃せない点である。しかし全員に今少しの落ち着きがあれば、まだまだ得点を重ね、前半で勝敗は決っていたように思われた。西ドイツも来日軍のベストメンバーでスタートし、積極的な攻防を展開し、しばしば田村紡の攻撃を食い止めていたが、全員にスピード不足の感は免れなかった。

休憩後再開された後半も、田村紡の攻撃は、一線防衛で積極性を欠く西ドイツに対し、ローリングを主に、小さく速いリターンパス、それにブロックとポストの活用など多彩に攻め、その動きは観衆にハンドボールの妙味をアピールするに十分のように見受けられた。

一方西ドイツの攻撃も前半同様ブロックとポストプレーを執拗に繰り返し、田村紡の守備のラフプレーに7メートルスローを得ること三度、これを左腕ネットビッチの強シュートで加点し、さらに長身ロイターがサイドから放ったシュートが見事に決まり、一度は10-12と2点差まで追いあげる緊迫した試合となり、観衆を興奮させた。後半開始後13分を経過した頃である。この間田村紡のミスボールを拾ったミューラーの単身ドリブルの妙技も披露され観衆を唖らせた。ここで追いあげられた田村紡は、適切な選手交替でチーム全体としてのスタミナのバランスを保ちながら、全員が十二分に走りまくり、得意とするパスワークも乱れを見せず、その間ゴールキーパーから直接だされた速攻を水谷、小林、清水がよくうけ継ぎ、さらにロングシューター長谷川が目覚めるようなロングシュートを右上コーナーに決めると、攻撃のスピードに衰えを見せず、本シリーズ最高の6点差で、全日本優勝チームの面目を堅持した一戦であった。田村紡の勝因は、全員が最後までよく走り、チームの長所を十分に發揮し、マイペースで戦い、全員むらなく得点したことにあると思う。

この一戦を振り返って西ドイツからわれわれが学ぶべき点をあげてみると、第一に、ボールテクニックの素晴らしさである。同じフォームから繰り広げられる幅広いプレーは、ボールを握り、自由に操るボールテクニックの産物であり、今後の日本ハンドボール界の一課題となるであろう。個人的にはミューラーとミルターの視野の広いプレーは特に強く印象づけられ、日本女子界には見られぬ巧技と言えるであろう。第二はチームリーダーに対して、他のプレーヤーが、常に忠実なプレーをする点であり、これも日本には多く見られぬことの一つと思う。

一方田村紡としては、11点の失点が示すように、防衛での積極性に欠けていたこと、長身者に対する防衛法について今少しの策がある

れば、易々相手にロングシュートを許したり、ゴール前でラフプレーを引き起さずに、最少限の失点で食い止められたように思われる。その他ゴールキーパーの守備法、特に後半許したサイドから放った長身者の飛び込みシュートに対する策を研究する必要があるように思う。全体的には日本女子界に要求されているロングシューターの不足が、田村紡にもあてはまるように思われた。長身者を捕えている外人相手には、幅と厚みの攻撃と、素早く、しかも巧みなフットワークによる守備力を早急に体得することが、日本女子ハンドボール界にとって急務ではなろうか(リスタンからの観戦記(宇津野年一・日本協会普及委員))

### 女子第8戦

## 大きすぎた立上りの失点

### 大洋デパート反撃遅し

女子第8戦は21日午後4時5分から熊本市宮体育館で大洋デパートが対戦。主審・井上元二副審・平井徳一、上妻武晴観衆約二千五百

大洋は若さを生かしたスピードで押しまくらなければ勝ち目はなかった。しかし立ち上がりの大洋は動きが鈍かった。西独は開始後6分までにミルター、ネットビッチ、ケラーが立てつづけにシュートを決めて一方的なスタート。大洋のテクニックなど問題にしない体力にまかせた強引なシュートだった。

#### 記者の目

平均身長、年令は西ドイツが172センチ、25才。大洋は155センチ、19才。

大洋は8分に垂水が中央突破で1点、その後は再三のチャンスにパスミス、オーバーステップなど大洋らしからぬ失敗を重ね4点差で前半を終った。

西ドイツ	13 (8   4)	大洋デパート	9 (5   4)
得点	0 3 4 1 1 0 1	得点	0 3 4 1 1 0 1
【大洋】	小 新垂渡射今枝	【大洋】	小 新垂渡射今枝
GK		FP	
ミルター	1	ミルター	1
ネットビッチ	1	ネットビッチ	1
ケラー	1	ケラー	1
ロイター	1	ロイター	1
シュート	13	シュート	13
得点	13	得点	13
失点	4	失点	4
得点差	7	得点差	7
MT	(3)	MT	(3)

後半に入り、大洋はかたさもはぐれ、思い切ったシュートを射って反撃し好ゲームとなった。終了3分前には新保が連続得点して2点差につめより観衆をわかせたが立ち上がりの失点が大きすぎた(富岡淳一郎・熊本日々新聞運動部)

#### 技術評

熊本における初の女子国際試合。1-5ドイツに固める大洋デパートに対し、西ドイツは平均身長(FP)一六六・五センチの豊かな体を揃えてスタートを切った。外人選手に対して不慣れた大洋デパートは、立ちあがりからなるとはなしに、ピントのはずれたような試合ぶりで、簡単に序盤のリ

ドをゆるしてしまった。これでドイツは充分なるボール・キープの余裕をもってゲームを進める様になった。大洋のデフェンスが強ければ遠くにボールを下げてもいいが、中央ポスト、両サイドの隙が出来るまで時間を気にする必要はなかった。

大洋は8分にして初点を挙げ調子に乗るかに見えたが得意の速攻でボールを落したり、つまりぬ返則をくり返し四点の差を開いたまま前半を終わってしまった。

期待した後半も三分後、ドイツのミドル・シュートでGK頭上を抜かれ「立直る機会はないのではないか」と云う不安なムードに陥った。

然し其の後大洋はドイツの一線防壁になれ、ミドルをよく決め12-10とつめたが、長身のドイツ、デIFエンスに間合が近すぎシュートをカットされたことは惜まれる。

後半、全体を通じドイツのポストプレーに対し無策に等しく、シュートされたら得点、ストップをかけたら7Mスローから得点された。

12-10でタイムアップの笛はなつたが、タイム外のフリースローが残っていた。

ミルターにハンドボールマガジン(注・本誌31号26頁)を地で行く様なダイレクト・シュートを食

ったことも大洋が外人チームになれの感を深くした。

以上が試合経過であるが、大洋は追い込まれた窮地より何度もう立ち直りかけ緒戦の不覚がなければ実によい試合を展開したと思われる。

しからばなぜ、緒戦に於て左右フリースローを二本、中央ポストプレー、サイドシュートと簡単に連続得点をゆるしたろうか。

第一には西独チームの間伸びしたパスのタイミングに迷わされた事だろう。ワンパンチのシュートやパスでなく幾つもコースを用意されたダブルモーションのパスが見にくく、パスの後を追いついた事がゲーム中、常に後手にまわらなねばならなかったであろう。

第二はポストプレーと、それからからんで、7Mスローによる得点をゆるした事である。ブロックプレーをしなからポストに入ってくるポストマンを大洋デIFエンスがたやすく防壁者の左に入れた事と、ポストマンに入れるパスに対してデIFエンスが間合を開け過ぎていたのも非常に悪い防壁であった。

ポストマンにボールが渡ってからはもうおそすぎた。体重の差を利用したエリヤギわの力技にひきずられながらシュートされるか、7Mスローの反則になるかであった。只、小技をマスターして

いない西独のミスによつて得点をまぬがれたこともあった。

第三には走らない西ドイツに対して大洋は速攻で対抗すべきであったが得点機に自滅した事は全く惜まれる。後半に大洋新保がミドルシュートを良く決めた。彼女が

前年のヨーロッパ遠征の勘を取戻したのかも知れない。国際ゲーム参加数十回と云ふ選手とゲームす

### 女子第9戦

## 全大阪、逆転もつかのま 巧いローリングの西ドイツ

女子第9戦は23日午後2時20分から大阪府立体育会館で全大阪が対戦。主審・山本孝夫(日体大出)、副審・井上真也、山中善之祐二観衆男子第11戦に同じ

西ドイツ 9(4-1-3) 8 全大阪

### 技術評

全大阪は立ちあがり固くなって、平素練習時の動きが、まったく見られず、西ドイツが4-1-1とリード。このまま西ドイツのペースで試合が進むか見えだが、全大阪は北村の7MT、中務(なかつかさ)が18分、19分連続シュートを決め4-1-3とせまり前半を終了した。

後半、全大阪は北村、梶原、福田らがボールをよく廻し、善戦をしたが、西ドイツも持ち前のうま

るには基礎技術も大切であるが豊富なゲーム経験も必要であることわすれてはならない。最後に西独チームは日本ハンドボール界に対して最適の相手であった。いろいろと学ぶこともあったと思う。この機会に中央、地方ともに前進される事を祈る次第である。(北川浩・日本協会技術委員)

## 女子戦 ミュンヘン、ロイターが好コンビ 第10 頑張った全静岡 高校"選抜

女子第10戦は午後2時40分から24日静岡市・泉草葎雑体育館で全静岡(高校選抜)が対戦。主審・H・ホルデス(西ドイツ)、副審・入谷泰市、池田正次二観衆男子第11戦に同じ

西ドイツ 13(7-1-3) 4 全静岡

記者の目 全静岡は高校生の選抜チーム。西ドイツの

得0	0	0	3	1	1	0	3	0	0	0
(クク)	(出)	(ク)	(ク)	(ク)	(ク)	(ク)	(ク)	(ク)	(ク)	(ク)
大	阪	日	大	寝	日	大	寝	日	大	寝
本	大	日	大	寝	日	大	寝	日	大	寝
全	本	大	日	大	寝	日	大	寝	日	大
山	馬	田	北	梶	原	福	中	魚	竹	岡
【	西	バ	イ	ユ	ー	ル	ン	イ	ー	ラ
得	0	0	2	0	2	1	2	1	1	0
【	西	バ	イ	ユ	ー	ル	ン	イ	ー	ラ
得	0	0	2	0	2	1	2	1	1	0
【	西	バ	イ	ユ	ー	ル	ン	イ	ー	ラ
得	0	0	2	0	2	1	2	1	1	0
【	西	バ	イ	ユ	ー	ル	ン	イ	ー	ラ
得	0	0	2	0	2	1	2	1	1	0
【	西	バ	イ	ユ	ー	ル	ン	イ	ー	ラ
得	0	0	2	0	2	1	2	1	1	0
【	西	バ	イ	ユ	ー	ル	ン	イ	ー	ラ
得	0	0	2	0	2	1	2	1	1	0
【	西	バ	イ	ユ	ー	ル	ン	イ	ー	ラ
得	0	0	2	0	2	1	2	1	1	0
【	西	バ	イ	ユ	ー	ル	ン	イ	ー	ラ
得	0	0	2	0	2	1	2	1	1	0
【	西	バ	イ	ユ	ー	ル	ン	イ	ー	ラ
得	0	0	2	0	2	1	2	1	1	0
【	西	バ	イ	ユ	ー	ル	ン	イ	ー	ラ
得	0	0	2	0	2	1	2	1	1	0
【	西	バ	イ	ユ	ー	ル	ン	イ	ー	ラ

得0002020000000	【松本高鈴藤増長小納中伊佐
得0020100050211	【ホデメケメネツロバケビポ
13	(0)
7MT	(0)
4	

【FPその他の出場者】▽全静岡望月(清水女)、渡辺、稲垣(吉原)何れも得0。▽西ドイツベッカー得1、ヘウイッカー得0

しかし全静岡の選手は必死になつて立ち向かった。まず攻撃の面を見ると、前半1分40秒に増田(吉原高)が右15度からアンダーシュート(得点1-1)、15分に鈴木(静岡城北高)が高橋(吉原高)のパスを右45度からきれいに決め(得点2-1)、19分30秒に増田がフェイントをかけて西ドイツ・デIFエンスをうまく抜き、左45度から飛び込んだ(得点3-1)。後半は8分に鈴木が右45度のポストから決めた(得点4-1)。この得点経過を見ても、中央からのゴールインは一本もなく、右サイドから3点、左サイドから1点のみ。

全静岡はミルター、ミューラーをマークしすぎて両サイドの防御を忘れた、そこをうまくロイターにつかれた。最初の1点はミューラーのフェイントプレーにシテヤられ、次いで4分、5分、6分とたて続けにロイターに3点を取られた。さらに18分、19分にもロイターに打たれてしまった。つまり、全静岡は前半7点のうちロイターに5点を取られたことになる。

後半はケラー、ビルカンツのポストプレーに得点を許し、西ドイツは、多彩な攻撃を見せてくれた。また西ドイツの10点目は11分にミルターがあげた。これは実に豪快なもので、満員のファンをうならせた。フリーフローラインからスピードの乗ったアンダーシュート。全静岡のバックス、GKはしばしばう然としていた。それほどうすばらしい一投だった。

敗れたとはいえ、全静岡は持っている力を十分に發揮した。とくに増田はよかった。前半5本のシュートで2点をあげ、全静岡の士気が大いに振るい立たせた。負けたという気持ちよりも、西ドイツのハンドボールに接することが出来た喜びの方が大きいように私は感じた。

強い手首など、高校生にとつては学ぶところが多かった。(鷲尾武治・共同通信社)

### 技術評

全静岡は県大会優勝の吉原高を主体に、清水女、静岡城北高による高校選抜チーム。これまでいくたびか訪れた外国チームに対して男女を通じて高校生だけの日本チームが対したのは、これが初めてである。

両チームの平均身長に約15センチの差があった。前半全静岡は2・4デIFエンズで相手のロングとポストを警戒したのだが、スロオーフ直後西ドイツは45度より全静岡のデフエンスの頭上から強烈なシュートを決めて先取点を挙げた。全くスピードのあるアツという間もないようなシュート。全静岡も増田が右45度から強引に流して1対1とした。その後西ドイツは正確なパスワークとポスト、ロングを巧みに使い着々加算した。全静岡は再三の攻撃もコンビ不充分と、あせりの為かパスマスやシュートをカットされる場面が多かった。しかし、増田がセンターをきれいに割込んで決めたのは見事だった。3点目は鈴木がこぼれ球を右サイドから決めた。前半7対3と西ドイツリードで終了。

後半は完全に西ドイツペースで進められた。ポスト、フェイントロングと多彩な攻撃、守備にとつ

ては、長身を利用しての早いつぶしに全静岡は一方にかたまりすぎたしポストもつぶされ攻めのチャンスが欠いた。苦しまぎれのシュートが目立った。

防壁もノーマークが再三見られた。後半は6対1であったが全静岡の1点は鈴木が終了直前に決めた。

いずれにせよスコアリーの開きはあったが高校選抜としては善戦であった。西ドイツは各地で試合し調子は上坂であったようだ。全静岡は選抜の為とまった練習会も充分とれず、攻防のコンビがちぐはぐに見えた。

国際試合は勿論始めてであるが若しし、心理的に固くなったのかタテの突込みやポストのゆさぶりがあまり見られなかった。今少し

変化のある速い動きやパスシュートを見せて欲しかった。防壁もあの高さからのシュートには、手が出なかつたようだし、足を使うフェイントにまどわされた感じがする。とにかく頭上を、パスがとおり、そのまま、シュートされる場面が多く見られた。逆に西ドイツはそのデIFエンズの低さと動きの鈍さをうまくついていた。とにかく、キープ力、パス、キヤッチの正確さはもとより、攻防のケジメは充分に今後の参考にし勉強すると良い。経験も高校体力の面でも劣りはあった。がとにかく4点の得点は消極的ながら最初の目標であったので善戦と言える。(渋谷行康・静岡協会理事、全静岡監督)

女子最終戦は27日午後6時30分から東京・駒沢屋内球技場で全日本選抜が対戦。主審・岡村昭二(東京教大出)、副審・佐野和夫(東京教大出)、安藤純光(法大出)観衆男子最終戦と同じ

全日本 8(5-1-3)7 西ドイツ 3(1-4)7 西ドイツ女子の日本での成績は11戦6勝5敗となった。

村紡・渡辺美(GK)、渡辺好、水谷、小林、清水それぞれに大崎電気の早川、鈴木を加えてスタート。

## 女子最終戦 清水(田村紡)が決勝のシュート 残念な全日本のラフプレー

「全日本に勝つため……」と前夜外出を禁止したドイツ。全日本も、負けるものか、と激しい斗志を燃やしてぶつかった。

得00041021000  
紡紡紡紡紡紡紡紡紡紡

【全】美(田)田(田)田(大)大(田)大(大)大(大)  
【美】好(谷)林(水)川(木)村(水)保  
【渡】水(清)早(鈴)種(垂)新

【西】イ(ユ)ー(ル)ン(シ)ー(タ)ー(カ)  
【ド】ヤ(ー)ラ(タ)ト(タ)リ(ー)カ  
【ツ】イ(ー)ラ(ー)ビ(ッ)タ(ー)カ  
【ホ】ミ(ケ)ミ(ネ)ツ(ロ)ボ(ケ)ビ

得000014110000  
7 (4) 7MT (2) 8

4日間の合同練習ではどことなくパスワークがシツクリしない。ドイツが押し気味だ。  
しかし、全日本は3分ケーラーのシュートをみごとキヤッチした渡辺美のパスを受けた水谷が大学生と高校生ほど身長の違い、大女の間をすばやくすり抜ける、ゴール前に走った小林にパス、ジャンプシュートがきまって先取点をあげた。この速攻成功で形勢は一気に逆転した。6分ロイターに押し込まれたが、11、12分に鈴木が連続シュートをきめてリード、さらに14分ローリングから種村、16分には小林の7Mがきまって5-1と一方的。だがこれからがいけなかった。勝利を意識したのか、懸命に反撃するドイツにシュートさせまいとして、ホールディング

ヤトリッピングのラフ・プレーが目立つ。17、19分には二つの7M。これをピンチ・シュート、ネットビッチにきめられて2点差。

後半全日本は好調なスタート。1分30秒速攻から、3分には7Mと、小林が二つのシュートをきめて再び4点の水をあげた。だがラフ・プレーは一向にあらたまらない。まるで特技——とでもいいたげな荒っぽさ。そのため4、11分に再びピンチシュート、ネットビッチに7Mをきめられた、うまいフェイントでGKを惑わし確実に得点したのはみごと。全日本はあせり気味、18分には同点に追いつかれた。これを機にスタンドの声援も一段と熱がこもった。ボールをキープした全日本は懸命の攻撃19分右サイドから渡辺好がきれいなリターンパス、これを清水がポストプレーからきめてリードし、逃げきった。

それにしても全日本のラフ・プレーは目をおおわせた。「闘志と粗暴とを混同していたのではないか? トルカ・ドイツ監督は「身長差をカバーするためには仕方がないんだらう……」と皮肉たつぷりに苦笑していたが、自滅へと突っ走る危険を多分に含んでいた。フェア・プレーに徹するよう心がけてこそ真の「技の向上」ができるのだ。(大國拓哉・読売新聞運動部)

### 対全日本戦・技術評

荒川 清美

【女子】 来日以来の対戦成績は6勝4敗、強行スケジュールにかかわらず満足とまではいかなくともまあまあ成績である。残る最終戦はナショナルチーム、自然に斗志も湧こうというもの。この一戦だけは飾って帰国の途につき度という気持の西独。果たして精も根もつき凄惨な一戦であった。

特に来日以来多種多様のチームに対し日本の特徴はつぶさに知り尽くしたので、あらゆる戦法を用い此の一戦にはかけるであろうと私も此の一戦に大なる期待をかけたわけである。

つとつとびセットプレーに徹しリズムをはずしてポストからのシュート。得点を確実に上げる。換言すればミスを少なくしボール保持時間を永くして相手の攻撃回数が少なくすれば必然的に勝利に結びつくことは明白な論法である。

しかし、日本としては動きの少なまんなパスにいかに対処すべきかを知っていたのである。かん急自在なパスワークもつめによって阻止され、カットからの速攻は日本唯一の戦法である。

それを計算に入れていなかったのではなからうか、ともあれこの一戦は日本にとっては最も不利であるはずの防禦が最も有利に展開

した一戦であるということができ。しかし、ミルター執念の一投は将来にも残る快投であった。

【男子】 西ドイツは、10勝2敗と満足すべき勝率ではあるが緒戦の全芝工大、全立大の大敗は肝に命じたものと見えその汚名をばんかかせんと意気けんこうたるものがあり、それにけがのため前二戦には欠場したグルンワルドを配した必勝のベストメンパーで対戦。

対する日本も手の中を知った木野、平岡、近森、近藤それにリードマン・ベテラン竹野、福本を配し一挙に勝敗を決せんという積極的な布陣の対戦であった。

戦前我々の予想は日本が勝つとすれば前半に決するであろう。後半に持ち越すようではと一沫の不安をいだいていた。

日本は初戦から期待どりの活躍、センターに平岡、両サイド木野、近森のコンビ、それに動きの近藤で広く厚く攻めたて、思う存分のゆさぶりができ作戦通りの試合であった。

守ってはつめを早目にして相手の動きを止め、クロスポストをふうじカットをねらいキーバとのコンビも申し分のない防禦に成功したのである。一方ドイツはメンダッハ、イバースそれにグルンワルドの見事なるパスワークに頼りすぎ、それがために混乱を来し、無理してサイドからシュートをす

ればまたまた日本の速攻に結び付いてしまい手の施しようがない感。をいだかした。

ドイツとしてはドリブルからのパスを生かし時間をかけて日本の防禦を近づけ広がった際のポストプレーを生かすべきではなかったと考えられる。

それにしても各々のプレーヤーは有利な態勢になればすかさずシュートをするとか、フェイントパス後のメンダッハのロングシュート、イバースの自在のチャンスメーカーとしての動きそれにグルンワルドの見事なパスはさすがにどうならせるものである。日本の学ばねばならないことである。

日本の反則の多いことと相手にきよう意を感じさせる動作があったことは今後国際試合における一つの課題として残されたものである。日本の総合力が向上したことは、ドイツチームも認めたことであるが、世界のトップレベルまでには、種々問題が山積されて居る。それを協会も選手もそれぞれ立場で一つ一つ解決していかなければならないことを痛感した。

ドイツの選手団一行が誠に無理なそして強行スケジュールをこれという事故もなく、遂行して頂いたことに感謝すると共に、本当に御苦勞様でしたと厚く御礼を申し上げ一行の健闘を讃える次第である。(日本協会理事長)

# 前半戦技術評 (前号未掲載分)

男子第2戦 前半開始後  
全立大24-11西独 全く全立大のペース

見るべきものと云えば、木野、安達、北村、野田などの速攻、セツトオフェンスを折り混ぜた多彩な攻撃のみ。暑さ、疲れもあつたろうが、全く期待はずれの試合であつた。わずかに、イバース、ヒルマーのポストプレーが注目されるだけであり、西ドイツの技術・戦術を学ぼうとするものには、期待はずれの一語につきる試合だつた (藤本強・日本協会常務理事)

男子第3戦 前半、東日本  
西独23-21東日本 本選抜は速攻を主体に

小気味のよい試合運びを見せてリードしたが後半は、じりじりと追いつける遅攻の西ドイツ・ペースにはまり逆転負けした。

立上がり東日本は平岡のタイミングのよいジャンプシュートで好調なスタートをきり、平岡、北井等のシュートがコーナー一杯によく決まつた。これは、西ドイツの防禦が殆んどゴール前に一線に近いため、スピードに乗ってカットインする平岡等のジャンプシュートが身長差とあまり影響なく打つたからである。一方、西ドイツは、得意のポストプレーをみせるが、成功率は少なく、ポイントゲ

ッター、メンダッハの個人技で辛くも得点を加えるだけであつた。後半に入って、西ドイツの勝たねばならないというフアイトはすさまじかつた。前半において東日本は試合運びもわかり、速攻に対するすばやい帰陣、特に、ゴールキーパーからの速攻に移るパスアウトは殆んどつぶした。また、前半の一線防禦を2-4とし、全体にやや前進した形となり、東日本の速攻のコース、特に、平岡のジャンプシュートにそなえた。この作戦が効を奏し、また攻めては、45度のポストプレーと、イバースの好シュートで10分後にはたちまち同点に追いついた。

平岡のシュートチャンスをつぶされた東日本は、檜塚、北井にボールを集めよく反撃したが、選抜軍のため、どうしてもコンビネーションがとれない。後半の山場は10分後、強烈なメンダッハの連続3点のロングシュートである。これが勝敗の分れ目であつた。東日本は西ドイツのポストプレーを警戒するあまり、メンダッハのマークをおろそかにし過ぎた。それにして同じようなコースを連続3点とは痛かつた。

リードしてからの西ドイツは、メンダッハを一時ベンチに休ませ、ストーリーリング気味の遅攻戦法をとつた。東日本もようやく北井、平岡が決めて一時同点に追いついたが、手痛い7Mスローと、再びメンダッハの強肩にリードを奪われ、最後の反撃も遂におよばなかつた。東日本としては、マークされた平岡をもう少し使いたかつた。必勝を期す西ドイツの中盤における烈しいつづしと闘志のむきだが印象的であつた。(箱崎敬吉・日本協会審判委員)

男子第6戦 『日本の攻防  
西独20-12中大 』  
「日本の攻防  
西独20-12中大  
」  
「日本の攻防  
西独20-12中大  
」

西独は、東北での連勝のあと、前日本チャンピオンチームの大崎電気にも勝ち、気をよくしていた。立ちあがりから、連戦の体力を考へてか、スロー・テンポの攻撃3分ヒルマーが左45度からシュートして先制、中大もその間逆襲に出るが、喜田のシュートを長身のドイツ・デیفュンスに阻止され決まらず、相変らずのスローテンポで、高い位置からゆっくりボールを廻すドイツ。5分すぎヒルマーが正面ポストにうまく入り、きめて2点目をあげる、中大もなんとか得点をねらつて攻めるが、速攻につながらず、ゴール前の防壁陣の前からシュートを放つがきまらなかつた。11分すぎ、速いボール廻しから喜田がフオーして正面か

ら見ごとなアンダーシュートでようやく1点をかえした。ドイツは相変らず作戦をかえず、ポストを使った、ゆっくりした動きで、13分すぎ、長身グッシュルが右45度からロングシュートをきめる。そのあと18分ドイツのボールを中大よくカットし、速攻から2番城がきめ19分には10番喜田がせっかく同点のチャンスに7Mを落とし、逆に20分ボールまわしからボールに正面からロングをきめられた。中大もすぐ反撃に出て5番森山が正面から見ごとなジャンプシュートをきめ、めまぐるしい動きになつた、しかし、そのあとまたお互いにシュートきまらず、やや西ドイツのペースで攻防がスローテンポになつた。22分ポストプレーを防御した中大が7Mスローをとられ、ゴルグが慎重にきめ、前半終了1分前ドイツのうまいセットから真中ノーマークを、オーネンにきめられ、中大すぐ逆襲、佐野が真中カットインときめて追い、6-4ドイツリードで終了。後半に入り、ドイツは相変らぬ動きの遅いしかも大きく速い位置とポストを使ったボール廻しから1分半長身のメンダッハがスタンディング得意の右45度からスピードのあるロングシュートをきめ、中大のもたついている間にオーネンが右

サイドからとび込み、続いてすぐ中大のボールカットをして珍しく速攻また、オーネンが真中からきめ、ポストプレーでパーテルがつかまつたが、防御をふり切つて、バック・シュートをきめ、調子づいたドイツは速攻から7Mをとりゴルグがきめて大量リード、中大も反撃に移り、森山が左45度からジャンプ、続いて中大堀切が速攻からのボールを右45度低い位置からロングと、ポストで7Mをもらつてよく決め反撃、ドイツも速攻からヒルマー、グッシュルがきめ10分間で大量7点をあげてリード。

終了近くに、中大は小さく速い動きで、5番森山がよく中央附近でカットインし反撃したが及ばなかつた。終了3分前ドイツトルカ、オーバステップの反則をとられ、ボールを投げつけて行つた、その態度が悪いと5分間退場を喰つたケースがあつた。ルールの違いはさておいて、審判の選手に対する態度、反スポーツマンシップ的な行為に対する態度では見習うべきものが感じられる、主審のクル德斯氏から何かを学ばせようと期待していたが、ゲーム自身に今一つ迫力がなく、身長に勝るドイツが常に主導権を握つて、ノンビリムードのゲーム運びになつたため

か、主審にも迫力が見られず、残念だった。全般を通して、ドイツの試合運びは遅く、中では何とか速攻にといった感じはみられたが、ドイツの長身選手の守る上、横を抜ききれず、最後には真中に集中しすぎた。もっと速い横の動きと、シュートに結びつく縦の動きを組合せてチャンスをおねらうべきだった。連戦のためかドイツはG.K・デュエル、イパースなど好プレイヤーを温存する余裕をみせていた。(佐野和夫・日本協会技術委員、審判委員)

### 女子第2戦

三菱鉛筆11-9西独

三菱が走り勝ったといえよう。第一戦を見て、西ドイツの速攻のなさを知ったためか、三菱は走り走った。前半西ドイツは相変らずのスローペース。速攻をかけるかと思っても、誰も走っておらず、ミューラーもしくはミルターにボールは出され、ミューラーを中心にしたセットオフフェンスになっってしまう。

逆に三菱は速攻。セットオフフェンスをひいてからも果敢に走り、落合、蓮見らが、積極的に打って出た。西ドイツが、積極的な頭上から、ロングシュートを決めるなど、小気味良い試合ぶりであった。大きく立ちふさがるドイツフェンスの上から、堂々とロングシュートが決められているのだから、

何も小さいを唱い文句にしなくても対等に争える印象を強く受けた。西ドイツチームでめだったのはミューラーの好配球、ロイターのサイドシュート、ミルターのみせたバックハンドシュートであった。特に最後のものは見事であった。コンビにはさしたるものがみられなかったのは残念であった。(藤本強・日本協会常務理事)

### 女子第4戦

西ドイツ大崎電気12-11西独

は、よく日本

の風土になれたためか、前3戦と比べ、帰陣が非常に早くなり、大崎の早い出足をとめ、長身を活かして、完全に片手でボールを持ってロングパスを多用。ミューラーを軸に横の大きな動きから大崎をゆさぶりロングシュートとポストプレーで前半中頃には4-1とリード、試合は完全に西ドイツのペースで行なわれたが、ミューラー、ロイターの主力選手を休ませた処を大崎も速攻から鈴木が得点してからガラリと動きが良くなり前半残りの5分間で4点を速攻の連続であげ、西ドイツを追い込み6-6の同点とする。

後半早川を中心にベテラン宇井黒川、笠原らが良くリードし速攻で押しまくったため、後半10分には2点をリードし前半と逆に完全に大崎のペースで行なわれた。西ドイツは中頃から疲労が見え動き

が悪くなり連続プレーのタイミングが合わなく個人プレーが多くなり大崎にリードをゆるしたが2番ミューラーが1人で頑張り最後の最後までねばり後半3点を取り大崎を苦しめたが、5本の7MTを2本しか決める事が出来ずこれに対し大崎は3本中3本を決め7MTの出来、不出来で勝敗が決った。(近藤金博・日本協会技術委員、東京重機監督)

### 女子第5戦

西独12-9東京重機

長身でボールさばきの速い

西ドイツに対し、小柄な東京重機がどのような戦法をとるか大変興味をもたれたが、やはり想像していた通り速攻で勝負に出た。

東京重機のスローオフで試合は開始され、まず四分山本(幸)が左45度からフェントで強引に割り込みシュートを決め1点先取。重機の動きは非常に良い。なおも点差を開こうとする重機は意欲的な攻撃を行ない、山本(タ)が再三ミドルシュートをするが惜しくも外れる。しかし5分山本(タ)が飛び込み、シュートを決め2対0とする。このあと西独もミューラーからのポストプレーで1点を返す。西独はミューラー、ロイターの動きが目立つ。シュートと見せかけポストにパスしたり、自分で強引に割り込んだりして大活躍。しかし重機のディフェンスも堅

くG.K高野のファインプレーもあり、加えて10分には飯田の7MTなどで5対2とリードを奪いこれはいけると思われたが、この後半機に2分間退場があり惜しいチャンス逃してしまった。西独はこのチャンスはミューラーの好リードでポスト、サイドと多彩な攻撃を展開してじりじりと点差を縮め、13分にはミューラーが独走し5対5のタイとした。西独はこの後、ディフェンスを堅め重機の突進をよく防ぎ、19分にはロイターが7MTを決め逆に7対6とリードし前半を終了した。

後半に入るや西独はミューラー、ロイターなどが連続して得点し3分には点差は10対6と開いた。しかしなおも食い下がる重機は山本(タ)、島田のミドルシュートで反撃し、10分には10対9と1点差に迫りもう一息というところまでいったが、その後10分間は得点できず西独に押し切られ12対9で惜敗した。

東京重機は前、後半にわたり再三速攻で西独陣内をかきまわしあとの歩のころまでいったが、パスキャッチのミスでせっかくのチャンスをつぶしてしまった。このミスをなくすることが重機の今後の課題であろう。しかし平均19才と若く、はつらつとしたプレーはこれからの成長を期待させる。(池田鉄哉・三菱鉛筆監督)

日本ハンドボール協会公認球

一番広く使われて居る!  
セブ



望月運動用品KK

東京都墨田区横川橋4丁目6  
TEL 本所(622)0746

サービス部  
新宿区新宿2丁目電停前  
TEL(34)2979-1016

# ほのぼのとした人間味……西ドイツ選手団

## 通訳をつとめた松本・鈴木両嬢の印象

西ドイツ一行は、今回の来日で11都市を訪れたが、各地で親善の実も大いにあげた。選手団と行動をともにして

彼らの「素顔」に接した日本協会委員通訳の松本操、鈴木日出子両嬢にその印象を記してもらった。

### 松本操

西ドイツのハンドボールチームを9月7日夜出迎えてから、29日出発する日までの東京滞在期間を共に過ごしたわけですが、通訳という仕事を通して感じた事を書いてみたいと思います。

初対面の握手でその人の感じと、というのが印象づけられると云いますが、その初対面で、なにかほのぼのとした人間味というものを彼等の中に感じ、それが今でも強く残っているのです。

選手の平均年齢が高かった事に関して質問があったとき「我々はハンドボールが本場に好きでやっている、又出来るだけ長く続けていきたい。それでこそ本場の技術というものが得られるのだから」と云っていた事や、彼等が一つの試合を(たとえどの様な相手

でも)大切にしていた事など考えると、ドイツ人の完全なるアマチュア精神というものを見せられた感じでした。

来日当初、気候にも慣れず、睡眠不足で体力的に参っていた様です。審判の問題も有った様です。

そんな話が出ると「我々は日独親善の為に来たのだから、いろいろの問題が有ったとしても、我々が最善をつくして試合にのぞみ、日本ハンドボール協会の招待に答えることが一番大切なことなのだから」という言葉がどの選手からも聞かれました。

来日早々に傷をしたグリュンバルトが四はりもぬった足で試合に出るといって困らせた事や帰国を前にしてパスポートとお金をなくしてしよげかえっているケッセマイヤーをつれて警察や大使館を

かけずりまわった事などいろいろと有りましたけれど、ともかく皆んなをろって元気に、日本でのよい「印象」と野球帽やバットをおみやげに無事に帰国出来た事が一番私にとってうれし出来た事だ。

それと同時にやはり日本ハンドボール協会の皆様が東京はもちろん各都市に於て心から暖かいお世

話を下さった事が彼等にとっ「忘れられない」印象だったと思います。

帰国後の便りによれば、「もうハンブルグは枯葉も落ちてきびしい冬を目前に控えています、ただ夢の様に過ぎた日本旅行をなつかしく想い出している」とか。スポーツを通じての人間関係がどんなに大切か学んだ次第です。

### 鈴木日出子

西ドイツのハンドボールチームと過した日々は、大変な事もありましたが、楽しい思い出だけが、今の私に残されています。

私は、今迄、ドイツ人との直接のお付合がほとんどありませんでしたので、32名という大勢のチームに対して、果してうまくやれるか、どうかという不安感がありました。しかし、皆さん良い方達ばかりで、不安は消えました。

彼等が、一度ハンドボールから離れた時は、「この方達が、あの激しいハンドボールをしているのか」と思われる程で、もし良く書けば、「のんびりしている」悪く書けば、「ぬけている」と表現し

たい方達でした。試合中の事でしたが、私が感激しました事の一つに、仙台会場でのことがあります。女子は試合がなく、応援団でした。彼女等は彼女等独特のリズムによる拍手を、どちらのチームがシュートを決めた場合にも行ないました。すると始め観客の一部の学生さん方が合せていました。最後には全観客が一つのリズムによって、拍手をしていました。彼女等は大笑に喜び、何とも書き表せないジーンとする日独親善試合にふさわしい風景でした。

# ミカドハンドボール

TRADE MARK



日本ハンドボール協会公認球

# ミカド商会

東京・豊島・巣鴨・7丁目1696  
TEL (941) 2635・6592



# 成年女子、25分ハーフに（来季から）

## 複審制の採用も実現か

トルカ氏、本部役員とこん談

日本協会では、最近のヨーロッパハンドボール界の動向と、IHF（国際ハンドボール連盟）のルール改訂機運を知るため、西ドイツ選抜チーム監督ヘルム・トルカ氏（西ドイツ女子ナショナルチームコーチ、ハンブルグ・クラブ指導者）を招き、9月28日午前10時から東京・体協401会議室で馬場副会長、荒川理事長、中沢技術部長、安藤審判部長など主として技術分野の関係者がこん談を行った。

席上、トルカ氏は「1972年のミュンヘン・オリンピック大会をめざして、ヨーロッパ各国はかなり積極的な活動を示しはじめている」と語り、「女子の参加は、今後さらに検討が加えられるだろう」と話した。

またIHFのルール改訂機運に關しては「變動はそうないと思う」と前向きに、次の諸点を明らかにした。

一、1968年度からすべての国の女子公式試合時間は25分ハーフとなろう（注・現行20分、今夏IHFから送られたルールでもそのようになっている）

一、ヨーロッパの一部の国で試行されている「複審制」が成文化されるのは時間の問題だ。（これによってゴールジャッジ制廃止）

一、フリー・スローの際、スロー以外の選手がフリー・スローライ

ン内に居ても、出ようとす意志が示された場合と、次のプレーに關与しないかぎり反則をとらな

こん談会後荒川理事長は「ルール問題に關してはIHFと連絡をとったあとで、国内規則を改正したい。しかし、女子の25分採用はヨーロッパの大半の国が、この10月のインドアシーズンから実施に踏み切ると伝えられているので、日本の関係者も、来シーズン初頭に切り替えられるよう準備を進めて欲しい」と語った。

なお、複審制については、審判部で検討が加えられるが、早ければ11月東京で開かれる第4回東京選手権をテストケースにしようという構想があり、日本協会、審判部、東京協会（同大会主催者）の三者で今後打ち合わせが行われる予定。

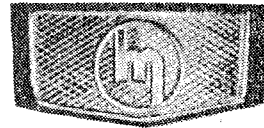
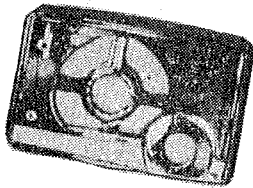


対談中のトルカ氏と日本側役員

プラスチックの総合メーカー

### メッキは金属だけでは……

### ……ありません!



精密金型設計・製作

マイクロプラスチック成型

プラスチックメッキ

## 株式会社 宗形製作所

本社	大阪府高槻市辻子241番地	TEL 高槻 (0726) 75-5551
東北本社	福島県福島市清水町字中谷地48番地	TEL 福島 (02452) 13-2812・2911
宗形工業化学株式会社	大阪府高槻市辻子252番地の1	TEL 高槻 (0726) 75-5767-8
京都金型製作株式会社	京都市南区上鳥羽花名町19番地	TEL 京都 (075) 68-9701





対大崎電気



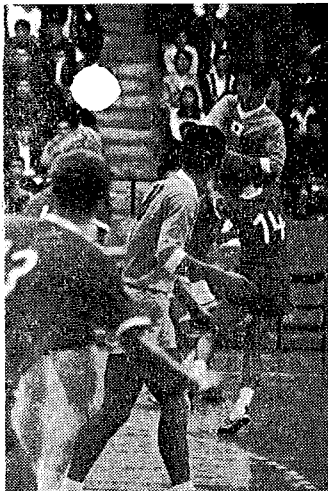
男子第2戦 对全立大



対東日本選抜



男子第9戦 对全京大

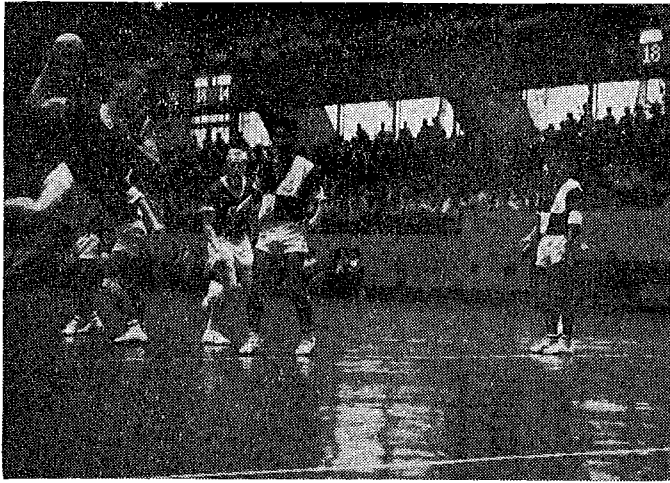


対全日本



女子最終戦 对全日本

戦 (1967.9.9~9.27)



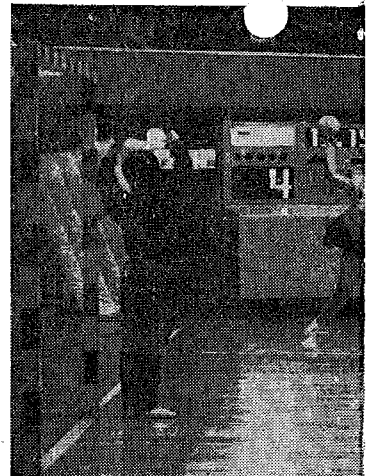
男子第1戦 对全芝工大



女子第1戦



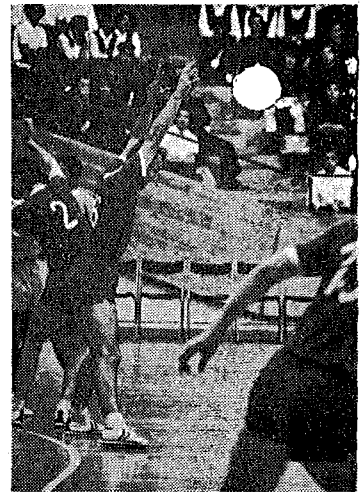
男子第3戦 对東日本選抜



女子第3戦



女子第8戦 对大洋デパート  
(熊本日日新聞提供)



男子最終戦

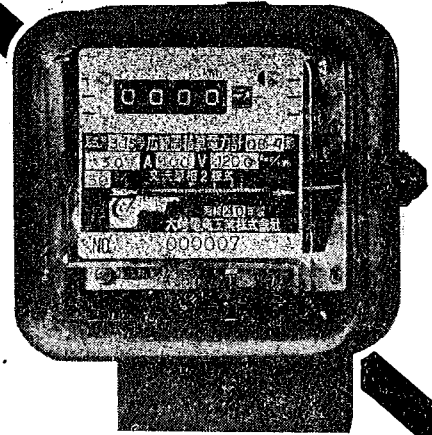
对 西 独

Osaki

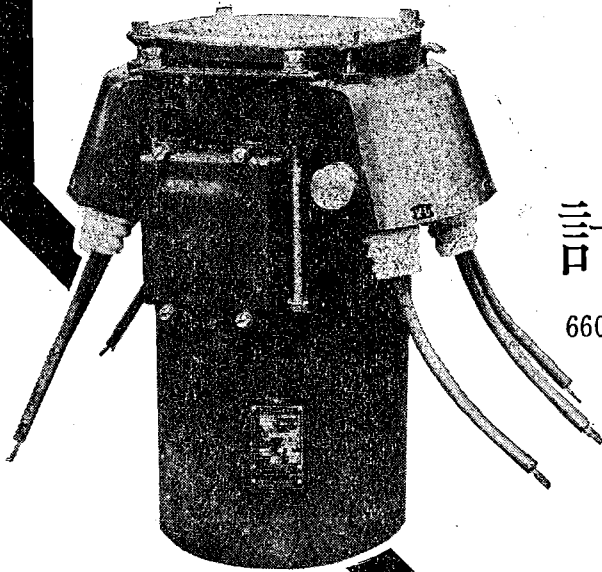
最高の確度と信頼度を持つ

# 電力量計

(単相用)	OB-7形
(3相用)	OW-7形
(精密用)	OP-3形



OB-7形広範囲単相積算電力計



# 計器用変成器

6600V用重予型PCT PDN形

## 主要製品

電力量計・電流制限器  
計器用変成器・電圧調整器  
配電盤・分電盤・制御盤



# 大崎電氣工業株式會社

本社・五反田工場 東京都品川区東五反田2-2-7 電話東京(443)7171代表  
 蒲田工場 東京都大田区多摩川2-8-1 電話東京(732)6511代表  
 埼玉工場 埼玉県入間郡三芳村大字藤久保 電話0492-61-1205

特・別・座・談・会

日独戦を

顧みて

五輪強化へどうつなげるか

出席者 (敬称略)

- 日本協会 理事長 荒川 清美
- 同常務理事 技術部長 中沢 重夫
- 同常務理事 審判部長 安藤 純光
- 全日本男子 監督 北村 尚英
- 全日本女子 監督 宇津野 年一
- 日本協会技 術委員・立勝 繁夫
- 大監督

司会・本誌編集部

— 七人制一本化後はじめてヨーロッパから招いた代表チーム。それも球界待望の外国女子の初来日とあって内外から多くの期待がかけられるうちに行われた今回のシリーズですが、今日は多くの角度からシリーズをふり返ってみたいと思います。まず、荒川さん。日本の男子3勝10敗、女子5勝6敗という成績をどう感じられますか。

荒川 私是最初、男子4勝、女子4勝とみていたのです。

男子は全芝工大、全立大、大崎電気それに全日本。女子は全日本総合の上四つと全日本というわけです。

それが男子は一つ負けすぎ。女子は勝算ありとしていた大洋デパートが負け、不利かなと見ていた三菱鉛筆、愛知紡が勝った。さし引き一つ余分に勝てたという事です。

— 女子の場合はそうすると嬉しい誤算ですね。

荒川 まさか大洋が負けるとは思いませんでした。各チームともよくやってくれて「レベル向上」という風評を裏付けてくれたのはよかったです。

中沢 日本の女子のレベルはヨーロッパでも相当高いので、これによって一そう注目されることになると思いますよ。

— それでは男子の西ドイツチームの印象をまずうかがうことにしましょう。

勝さんは今春の世界選手権に行かれていたのですが、世界のトップレベルからみて、今回の来日チームはどの程度のレベルでしょう。

勝 「まんなか」ぐらいでもいいでしょう。か……。

— というのは、今回のメンバーの主体はクラブの連中で、それにナショナルチームの選手が加っていたわけで、この逆の編成ならやはり、日本チームは全日本がどうか1勝をあげ得た程度で、「善戦」がせいいついばいではなかったらうかと

思います。

西ドイツナショナルは現在世界第6位。その時のメンバーよりちよつと落ちるというところで「まんなか」という評価をしてみたのですがね。

中沢 私はこれまでヨーロッパに2回行かしていただいているので、その時の体験から、ナショナルチームならともかくクラブ主体のチームなら勝てないことはないと思っていましたし、技術部としても3~4勝はという強気な目標をたてていました。

北村 僕は卒直にいつて期待はずれでした。実際にチームを見てみて「なあんだ」という気になりましたね。

— 具体的にどんなところに失望したのですか。

北村 プレーに厳しさが無いということですね。

僕のヨーロッパ遠征の時の印象ではルーマニア、チェコといったチームの選手はすべてのプレーが執念にみちいていて迫力がある。

荒川 これはやはり西ドイツが、本格的な室内シーズンに入っていないなかったことや気候的にまいるという条件の悪さもあつたと思う。むこうはいま15度ぐらいだそうで、はじめのうちは暑さにすつかりいかれていた……。

安藤 たしかにそれは云えるでしょうね。全般にスピードの乗ったプレーが少かつた。

あの大きな身体にスピードがブラスされれば、さぞかし豪快な試合ぶりが見られたらうと思うと、やはりベスト・コ

ンデインヨンで来日して欲しかった気がします。

第5戦(9月15日・対大崎電気)あたりかなりスピードが出て来て、これからは本領発揮かなと思つたのですが、最後までつづかなかつた。

宇津野 私は実際に本場を見ていないので話を聞いた範囲で、共産圏諸国よりきれいなハンドボールいわゆる華れいなパスワークを紹介してくれると期待していたのですが、やはり皆さん云われたようにスピードがなかつた。ただ攻防両面でのチームとしての中とか厚みといったものは、さすが名門らしく見るべきものがあつたと思います。

— 期待はずれというより持てる力を十分に発揮できなかったというような感じがたしかに強いのですが、こころあたりは外国チームを招く時期とかメンバー構成の難しさがあるようですね。

荒川 そうですね。特に西ドイツの場合、いまだにあそこは7人制と11人制の二本建てで、今はまだ11人制のシーズンでしょう。

日本に来るといっているので、特別に8月末から7人制の練習をしたというのです。が、それもアウトドアでちよつとやっただけらしいのですね。

前に来たフランスのステラクラブなどは、フランスは7人制だから、何時招いても問題は……。

今回でよく判つたのですが、二本建ての国から招くのなら4月末か5月。つまり室内のレギュラー・シーズンがすんでからということ以外ないようです。

——メンバーの構成についてはどうですか。

荒川 トルカ監督に聞くと、男子のナショナルチームは今春世界選手権を終った段階で一応各所属クラブに帰してしまい、今回の来日にあたっては、ハンブルグ協会が、ナショナルチームのプレイヤーに呼びかけて参加を募ったようです。

ですから西ドイツ協会はチームを「ナショナル」と認定するだけで遠征費用はあくまで自己負担。そのために今春の世界選手権の花形も辞退せざるを得なかったというところらしいですね。

——たしかに、来日メンバーのリストが日本協会にとどけられたのは8月も20日をすぎた頃でしたからね。では次に女子チームの印象をうかがいましょう。

宇津野 なにしろ外国の女子チームが来るのは初めてのことですし、私自身本場のプレーを見ていませんので、予測する資料が何もありませんでした。ただ、宮原君（大崎電気監督）などに聞いて、おおよその見当をつけて、まあある程度は善戦出来るという希望を持っていたわけです。

しかし、体格の違いからくるボールテクニックにとまどうのではないかと思っただけですが、男子同様のスピードがなかったので予想以上に日本側が戦えたと思っ

ています。  
安藤 男子が大きい大きい大きいといろいろなところで云われますが、女子こそ大きいという印象が強かったですね。  
身体が大きいですから当然動きが鈍くなると思っただけですが、その通りで、小さい

日本の女子の方がこまめに走って勝機をつかんでいたのは、日本の女子界の将来というものが、大きく開かれているといつてよいと思うのです。

北村 予想以上にいいチームだったですね。ヨーロッパの女子というのはナショナルチームはともかく、地方のクラブチームは、勝負を競うことよりも仕事の片でまにレクリエーション的にやるうという意識の方が強いわけですね。

でも寄合世帯のためか、チームプレーで得点しようとする精神に欠けて、やたらとバックシュートを打ったり確率の乏しい個人技に走っていたのはどうかと思

いました。  
荒川 北村君のいうようにヨーロッパの女子スポーツというのは社会性が強いというのかな、自らの健康のためにスポーツをする傾向が強いです、スポーツをやるために入る日本の実業団とはおのずと差が出てくる。

その割にはトッププレイヤーが加っていただけに見えるべきものの多いチームでした。ただ日本チームの方が得点力を持っていたことが5勝という星につながったのでしよう。

宇津野 むこうの助監督さんが、日本の勝因はスタミナだといっていました。そして、日本チームの練習量の豊富さがうらやましいとも……。

しかし、さすがに日本の選手をらくらくとかかえこむようなデフェンスや、攻撃面でのブロックプレーなど学ぶべき点が多かったですね。欲を云えば、スピードのうえにあの多彩さがプラスしてい

てはしかなかったと思います。

安藤 それにしても日本の選手は若いね。西ドイツでは32才のヘーウィガーをはじめ25才以上が7人もいたものね。荒川さんのいわれた社会機構の違いでしょうね。これは。

北村 ホイヤーもオリンピックをめざすより、これからは一日でも長くハンドボールをつづけることのほうが目的だといっているほどですからね。

——日本の女子スポーツもそうした傾向がもう少し強まってもいいですね。OGクラブの活動などみても、いわゆる若手だけで、古い人はだんだん姿を見せなくなる。

勝 いいトシして何時までも……といった気持ちも、自分にもあるし、ハタの目も強いうちはダメでしょう。  
——来日チームの印象に残った選手とプレーがあつたら聞かせて下さい。

中沢 男子ではメンダツハのロング・シュート、イバースの動き——特に配球となぎのうまさ。グルンワルドのフオロー・プレーが目立ちました。

宇津野 グルンワルドみたいな選手は世界のトップチームを自ざすには絶対欲しい選手ですね。

荒川 彼は来日早々宿舎で足をぬうほど切つてしまい前半戦出られなかったのだが彼が初めの二試合に出れば、もう少しその展開が変って来てたかも知れない。  
中沢 要といわれたデュエル（GR）は、今春の世界選手権でわれわれは顔を合わせているのですが、その時よりもろかった。

北村 デイフェンス・メンの悪さもあるでしょう。特に連けいの……。

中沢 それはあるだろうね。  
北村 第1戦のハーフトタイムで、彼はカンカンになってみんなに怒っているのです。守りかたが下手だといつてね。

でも、そうした点を差し引いても、僕らしい印象はぬぐえなかったですよ、僕

勝 控えのキーパーのケツセマイヤーというのは日本のシュートに手も足も出なかつたね。  
——他に目立った選手はいませんか。

北村 もっとも日本的なつっこみを見せていたと思うのはヒルマーですね。ジャンプシュートもいい。  
中沢 パールのポストとのつなぎも良かったな。

勝 私はイバースというのがいちばんよかつたように思う。何より足がいい。  
北村 速攻の時もイバースしか出しませんね。

安藤 さつき話に出たグルンワルドみたいなタイプは日本で見られない。特異なプレイヤーだね。  
中沢 彼はナショナルプレイヤーでしょう。誇り、みたいなものも他の選手に

対して持っていましたね。  
勝 なにしろ外国ではスポーツに打ちこむからはナショナルチームの選手になることが第一の目的なのだから、そうでない連中は一目おくことになる。  
安藤 デュエルが第1戦で怒ったというのもそれと同じなのでしょうね。  
荒川 どの試合か忘れたが、グルンワルド

がGKの交代を命じたことがあるね。  
——では女子の選手に移っていただきま  
しょうか。

宇津野 GKのホイヤーとミューラー。

中沢 これはうまい。

宇津野 スタミナ不足のせいかよく交代は  
していましたがミルター。それにシュー  
トの強いネットビツヒ。ポストでは金髪  
のツン。それにロイター。こんなところ  
ではないでしょうか。

安藤 ツンを除いてはみんなナショナルプ  
レーヤーでしょう。中でもミューラーは  
いちばんだ。

宇津野 年若のくせに他の選手をアゴで使  
っている。

北村 初練習の時もいばってましたね。

宇津野 ミューラーとミルターが戦列に入  
った時は強い。

そのミルターも宮原君に聞くとこの前  
の世界選手権では補欠だそうで、ミュー  
ラーにいたってボール運びや道具持ちだ  
というのですからその層の厚さが判りま  
すね。もっとも当時より進歩してはいる  
のでしようけれど。ミューラーのように  
ボールを持ったと同時に、それを送るべ  
きコースを3本も4本も同時に判断でき  
る選手は日本にちよつといませんよ。

北村 たしかにミューラーはうまいけど、  
シュート力が物足らないですね。

地味だけどビルカンツというのがよ  
い動きをしたのではないですか。

出て来ると必ずノーマークチャンスで  
つかんでいた……。

荒川 ホイヤーとミューラーがずば抜けてい  
たと思うな。この二人がいただけ男子よ

りも強力な軸を持っていたといつてよ  
い。それにミルターだね。

宇津野 最終戦に見せたミルターのシュー  
トはすばらしかった。

デイフェンスのわきの下から手を出し  
てね。ボールを後へ引いて出るタイムミ  
ンクが日本の選手とまるで違う。以前、機  
関誌に、彼女がタイムアップ前にデイ  
フェンスの壁をかわして、横たおしにな  
りながらシュートを決めた写真が紹介さ  
れていましたが、今回もそれに近いプレ  
ーを九州かどこかで見せたそうすね。  
——それでは男子を通じて西ドイツから  
学ぶべきプレーをあげていただきましよ  
う。

宇津野 日本人だとポストプレーはポスト  
プレーにすぎないのですか。彼らのポ  
ストはブロックを併せて多彩ですし、ポ  
ストの動きが流動的なのが特徴でした  
ね。しかもポストマンがつねに有利な場所を  
とっているというのを見習うべきこと  
です。

勝 たしかにそうすね。  
実は今度来たトルカ氏にわれわれは前  
にハンブルグで指導を受けたことがある  
のですが、ポストの立ちかたについては  
実にやかましいし、その練習に多くの時  
間をさいているのです。

ここで問題なのは今の日本のデイフェ  
ンス、平気でエリアを横切ったりするの  
ですが、むこうではこれをきびしくとる  
から一切それが通用しない。  
ポストプレーとかブロックプレーとか  
を完成させるには、判定問題が大きくか  
らんでくると思う。

宇津野 ブロックの問題にしても「押す」  
ことに対する解釈があまりないなうちは、  
ちゃんとしたプレーが出来ません。すぐ  
とる審判員もいるし、そうでない人もい  
る……。

中沢 西ドイツのブロックプレーは手を広  
げて立ちふさがるだけです。実にいいと  
思う。

北村 彼らのブロックはそれとタイミング  
がいいのです。  
ブロックをかけられたなと思つたらポ  
ンポンとポストにボールが渡つて、もう  
ノーマークから射たれている。

つまり、ぶつかった瞬間、すでに次の  
プレーに移っているのですから、それか  
らのトラブルが少いわけです。  
——日本のブロックプレーというのは、  
つかまえているのが明らかにわかります  
ものね。

ブロックとインタフェアを錯覚して  
るんじゃないかと思う時もあるほどです。  
中沢 ブロックをかける時間が「瞬間」と  
いつてよいほど短いのですよ、彼らは。

北村 それと目立ったのはポストでのキャ  
ッチングが確実なことすね。

安藤 後半戦になって彼らの動きがよく  
なるにつれ、ドリブルを非常にうまくカ  
ットしていたのが目立ちましたね。

中沢 リーチが長いという利点が活かされ  
ていた。

宇津野 全体的に、ここぞという時は腰が  
よく落ちていましたし、さすがそうした  
基本は全選手がしつかり身につけている  
のは感心させられます。

荒川 戦法面では彼らは「つなぎ、チャ

ンス、シュート」というものをしつかり  
と心得ていた。これは豊富な国際経験に  
よって生まれるものでしょう。

それともう一つ、しきりに選手交代を  
していたが、それでいて少しも全体の展  
開のリズムを狂はさないのだね。これは  
見習うべきだと思った。選手を交代させ  
ることによってチームプレーの組織がこ  
われてしまつたり、リズムが狂うことは  
よくあることですよ。

——なるほど。今、皆さんが云われたこ  
とはたしかにこれまでの日本チームに欠  
けていた面すね。

荒川 それに彼らは、走る時つねに足をク  
ロス気味に運んでいたのも感心させられ  
たね。

両足が開いていたり、平行だと腰が入  
らないでシュートするにもスピードが乗  
らない。クロスしたフットワークについ  
ては日本の指導者もこれまでずいぶん口  
をすっぱくして云っているようだが西ド  
イツの連中は、ごく常識としてそれを身  
につけている。

——ところで、昭和31年来日した西ド  
イツ選抜と比較しての印象はいかがです  
か。

荒川 あの時は何しろ初めてだったから  
ね。何もかも……。

宇津野 びっくりしたということなら比較  
にならぬほど、あの時の方が強い。走  
力、シュート力すべて驚異でしたよ。

中沢 日本もずいぶん検舞台に出るようにな  
ったし、外国チームなれしたというこ  
ともあるでしょうけど、スケールは圧倒  
的に前の時の方が大きかったですね。



—そうなる、昭和31年の時は8連敗、昭和35年のルーマニアの時10連敗と、これらは11人制ではあったのですけれど日本は手も足も出なかった。それが、今回はともかくもヨーロッパのトップチームから勝ち星をあげることが出来るようになったのは、日本のレベル向上として喜んでいいものではないか。

荒川 喜ぶということになるといういろいろ問題も出て来ると思うけれども、ともかく再三のヨーロッパとの交流で日本チームが各チームともその総合力を発揮出来る態勢にはなったといつてよいと思いません。

男子の場合、第1戦第2戦それに最終戦はコーチ陣も主力選手もヨーロッパ遠征の経験者でしたし、この前の時より、いわゆるメドだけはつけられたというところではないですか。

—日本のあげた今回の勝利は、ほんものといつていいですか。

荒川 現在の力は認めることが出来るが『これでよろしい』とはいえませんね。何故なら、こういうシリーズは相手変われど主変わらずでしよう。

日本側は次々と策戦を考えることも出来るが、相手は転戦というハンデイがある。しかも見もしらぬチームが連続する。同情すべき点が多いわけですよ。

勝 “ほんもの”かどうかといわれると私は慎重派だから、今回の相手の力などを勘定にいたらうでないかね……(笑)。まあ、今回のチーム相手ならこの成績は順当だと思います。

ただ、これが即世界に通じるかといえ

ば難しいわけで、日本チームは一度も二皮も脱皮しないと、世界の壁は破れないと思ふのです。

ちよつと横道にそれるのですが、今春世界選手権に出る前にルーマニアに寄つて、そこで例のクンスト氏(注・イオン・クンスト、前ルーマニアナショナルチーム監督、昭和35来日)に会つたら彼が『日本は新幹線などというすばらしいものが出来たり、他の工業力も大発展している。それなのにハンドボール技術はちつとも進歩してないじゃないか』というのですよ。

—なるほど。貴重な警告かもしれませんね。これは……。

中沢 もつとも、世界選手権を終つたあとで、彼は『君らに謝まらなければならぬ』。日本がこんなにやるとは思わなかつた』とわざわざ云いに来てくれたんですけどね。

ともかく、今回程度の相手なら『やれる』という勝ちムードで向かつていってもよいぐらいには日本のレベルも上がつていふと思ひます。今までは『善戦しよう』が最高の目標たつたわけですからね。

特に女子の場合、本場での評価も高いのですしなおさらです。

具体的には、外国チームに対してミドル・シュートが決まるようになったのは大きな進歩だと思ひます。

北村 今度ぐらゐのチームなら全日本は勝つてあたりまえ、負けちゃあいかんぐらゐに僕は実は思つてました。だから最終戦を前にして出来ることな

ら15点差、悪くても10点差ぐらゐはつけようというのが正直な気持ちでした。

問題なのはこれからの日本選手は、もつと経験を積まねばならないということではないでしょうか。

木野(立大)近藤(大崎電気)といったところが、少くとも竹野選手(大崎電気)と同じ、あるいはそれ以上のキャリアを積んでいなければいけない。経験が豊富なら、例えばその日シュートが決まらなく不調のようなボール廻しになるといった切り替えが出来ると思ひます。個人技そのものは、ヨーロッパのトップレベルに近づきつつあるのですから、なおさらです。

宇津野 女子の場合、さきほど云いましたように今回のチームと日本では練習量ではるかに違うため、それが勝負の分岐点になつていふと思ひます。

西ドイツにしてみれば、前半はどうかもちこたえても、後半になると、スタミナ不足からイージースシュートをやらに放つて、それを止められては一気の速攻をあびて失点を重ねたということになるわけでしょう。

ここで問題なのは、日本の場合、単独チームですとフォーメーションプレーも穴もなくやれるのですけれども、全日本を編成するとこれがスムーズに流れないのです。北村君のいった経験不足が女子の場合もはつきりしていると云つてよいのです。

—男女とも全日本をひきいられた監督から期せずして、経験不足という問題が出ましたが、こういった課題はこのあと

話していただくとして、安藤さんは今回の日本チームの戦いぶりをどう見られていますか。

安藤 私は素直に男子3勝、女子5勝はほんものの勝利といいたいですね。

勝つたチームは、国内屈指のチームなのですし当然でしょう。

体格差という問題も、例えば最終戦などを見ていると、全日本が小さいとは感じませんよ。

—それでは次に今回のシリーズを今後の日本ハンドボール界のレベル向上と強化にどうつなげて行くかという問題について話していただくことにしましょう。

荒川さん、今回の招待は親善が第一の目的だったのか、強化が第一義だったのか、そのあたりからまず……。

荒川 御承知のように今回の招待は前理事長時代からの計画で、実は引きついだだけというわけだったので。どちらかといえば親善色というものを強く打ち出して実行プランを建てはじめたのですが、ミュンヘン・オリンピックの出場権の一部を、オリンピックの二年前の世界選手権(注・一九七〇年フランスで開かれる予定の第7回世界男子7人制選手権)で決めようという動きがヨーロッパにあることを知りそれなら、とりあえず今回の西ドイツ招待を、ミュンヘンへのスターの第一歩にしようと思つて、親善にあわせてトップレベル強化もやろうと決めたいような次第です。時期的にこの決定が遅かつたために、その時はすでに国内の対戦チームも八分通り決まっております、全

日本選抜も最後につけ加えるといった感じになってしまったわけです。ですから当然、来年以後の国際交流はトップレベルの強化を第一の目的にしたいと私個人は考えています。

宇津野 たしかに今回のように全日本の対戦が1回だけということではなく、せめて2、3回は欲しいですね。

地方での試合も、すべて地元ということなく、地方協会が全日本と外国チームとの対戦を受け入れるといった体制も必要だと思います。

中沢 技術部としても、そうして欲しいと思います。3発ぐらいの滞同の転戦が出るのが理想だと思いますよ。

勝 トップレベルの強化というものは、やはり確固たる信念がなければ出来ないわけで、ただ単に世界のレベルに近づいたといっても、やはり常に脱皮を心がけて進まないという態度は失うだろうと思うのです。

安藤 ルーマニア、ステラ(フランス)、中国それに今回と、つねに国内での国際試合はギヤランティが先決というの、もう考えなければならぬでしょう。少くとも、こういう方針で、このチームを招いたのだという態度は欠かしてはなりませんね。

中沢 相手あつての勉強なのですから、対戦希望が多いからよいというものではなく、相手のコンディションを考えてトップ技術を発揮してもらうようにしなければ意味がない。

宇津野 それと同時に勝さんの云われた確固たる信念というか、いわゆる日本ハン

ドボール界としてのトップレベル強化への統一した見解というものを一日も早く固めて欲しいものです。

安藤 男子の場合はヨーロッパ経験者も増え、国内でキャリアをつんだ選手も多くなっているので選抜軍を編成しても「合わせる」ことが出来るのでしようが女子の場合は、たしかに一つにしばったものは要るでしょう。

宇津野 今回全日本をお世話していちばん感じたのはその点なのです。

個々のチームのレベルはあがっているし、強いチームも数多く生まれているのですけれど、そのピクアップとなると、どうまとめるか迷うし、選手自身も苦勞するのです。

ですから、外国チームが来る来ないにかかわらず全日本を編成しておいて、年2、3回の合同トレーニング(合宿)を行うようにすべきです。

荒川 それと同時に、いわゆる協会組織の強化というものも、ここで研究する必要がありますね。

勝 まったくですね。さきほどから出てくる確固たる信念といつても、例えば男子の場合、東欧系のプレーに進むか、北欧系のタイプをとるか、これは大事な問題で簡単に決められるものではないでしょう。

コーチング・スタッフというものの確立がまず必要になってくると思います。

宇津野 例えは全日本を組んでも一回限りというのではなく、それを育てようとしなければ意味がないわけで、コーチにしても一つの方針を押し通そうとする情

熱、意気込みが欲しいわけですね。

北村 これまでの日本ハンドボール界はすべてに一本通ったところがない。コーチング・スタッフにしても、審判にしてもです。これでは世界の上位に進むことは出来ないと思うのです。

特に審判技術の向上は、日本のレベルを引きあげることに大きな作用があるのですから、この面の対策は急務でしょう。

——現状の審判技術は高くないと思いませんか。

北村 人間だからミスはあるとは思いますが、でも毎回々とそれがつづく選手がかわいそうだ。いちばん問題なのは、本来のプレーを殺してしまう笛を吹くことですね。

それが秀れたプレーであればあるほど、ミスの責任は大きいわけで、大げさに云えば日本の進むべき道を閉ざしかねないと思えます。

中沢 それとはちょっと別になります。今回のシリーズでもやはりいぶんルール解釈に相異があったわけです。

せめて国際審判員会議には審判部長をふくむ三人ほどは必ず出席させるようにして欲しいです。

安藤 国内の判定でいちばん大きな問題は、その基準が地区により、人により違うことです。

これはどこの地区がよいとか誰がうまいとかの問題以前のことで、中央の態度とか判定基準を全国に徹底させるルートをいま考えているところなのです。

また、国際的な判定解釈の相異はやはり、国際審判員会議に出ないということが原因です。レフェリーの技術もプレーの推移について行くよう努力することを切望したいですね。

宇津野 審判には主観の部分が多いのだから統一出来ないという考えかたが一部にあるようですがこれは間違ったことで、基準に近寄ろうという精神があれば、食い違いが生ずるわけはありません。

勝 ホイッスルがまちまちというのは、まったく困ったことです。

宇津野 審判によってあまりにも違うようだとプレーを変えなければならぬ。変えられるプレイヤーはそれでもよいが、そうでないと、ぶつかってしまつて動きがとれなくなるわけです。

——だいたい問題が細部にわたつて来ましたが、時間もあまりありませんのでしめくくりとして、今回の経験を通してミュンヘンを目ざすからにはトップレベルをどうして強化したらよいかを話していただきます。

北村 全日本チームのメンバー選考をいわゆる上位チームにしほらずたとえ1回戦で負けたチームでも優秀なプレイヤーなら選ぶといった体制を布いて欲しい。

宇津野 ともかくやらなければいけないといういわゆる根性を選手に植えつけるためにも、コーチ陣がそれを自覚するためにも全日本の合宿を2、3回はして欲しいし、例えは来年11月の世界女子を狙うなら、その前にヨーロッパへ武者修業に出して欲しい。

こうしたことは、大きな障害があるわ



けでしょうが、それを打破するためには周囲の度量と当事者の責任感にあると思ふのです。

幸い、女子の場合、実業団各チームに若い将来性のあるコーチがいるのですから、私が布石になっても、是非こうしたいことを実現させたいと考えます。

安藤 北村君のいうような全日本メンバーの選考はよいことだし真の最強チームを造る無二の道でしょう。

それと日本のサッカーが西ドイツからクラマー氏を呼んで成功したように、ハンドボールの場合も、ヨーロッパから力のあるコーチを招いて指導してもらうこともよいのではないかと思う。

それに再三話の出ている「日本の進む道はこれだ」という柱を打ち建てるべきでしょう。

勝 安藤さんのいったような柱がないと力の持って行きようもないわけで、責任を持たされたコーチングスタッフによって世界をめざす指導体系の確立が急がれてしかるべきです。

中沢 今年の4月からいわゆる新体制というものになって、技術部としても、かつてないオリンピックという大きな目標にむかって進もうとしているのですが、これまでになかった多くの理念・理論が今、各所から出されて、それを交通整理中というのが現状です。選手の発掘一つにしても予算をとまなうことであって、そちらとの関連も考えないわけには行きません。

この座談会席上、いわゆる指導理念の大もとを発表するわけにも行きません

が、なお一そう煮つめて、確固としたものを出したいと考えています。

荒川 強化々々といっても、いわゆる技術がうまいだけではなくアマチュア選手として当然備えていなければならぬマナーの問題もあるし、中沢君のいった予算という問題も大きい。

一つの決められたワクの中でおさめるというのではなく、プランにそったワクを考え出すといった巾のある行きかたで、これからは歩んでいこうと思う。

私自身としては、やはり指導者の養成、全国各地から優秀選手を集めた試合などを行って日本がいかにしたら体格の秀れた外国チームの壁を突き破るか考えたいと思っています。

幸い、最近のデーターでは、日本のハンドボール人口の八割強が高校生以下の若い世代ということなので、将来への希望は大いにあるものと確信しています。

今回の西ドイツ招へいは、そうした目標に進むスタートとしては、まずまずの成果をあげ得たものと思つていますが、男子3勝、女子5勝ということにおさることなく、問題点を拾い出し謙虚に反省すべき態度を忘れなければ、むしろ上々の成果を得た今回のシリーズであったと考えます。

——ユーゴ、フランスなどから来日の希望が伝えられているとも聞いていますが、こうした国際試合を機の一つ一つ着実な発展を上げられるようお願いがせぬ。どうも皆さん、長いあいだありがとうございます。ごさいました。(9月28日・体協401号室で)

今春スウェーデンで開かれた第6回世界7人制選手権に出場し、ホルスト(デンマーク)らと並び優秀GKの折り紙をつけたH・デュエル選手は来日メンバーのなかでも、もつとも注目を集めた一人だ。体育大学を出て、いまは体育教官をしているという彼だが、わざわざ持参したパンジョーのひきうたいは女人はだし。甘い声を毎夜宿舎で鳴らしていたものだ。彼とのインタビューは「音楽」からはじまった……。

名前は忘れたがよい選手がいた。木野、近藤はすばらしい。」

——日本をどう感じた?

「近代的な国だ。それとこれはハンドボールの話を聞くと、日本はトレーナー(監督、コーチの意)のパラダイスだ。このままだに日本に残ってどこかのクラブのトレーナーになりたいとさえ思う」

——どうしてそう思う

「選手たちは試合が終つてしまつてもトレーナーの云うことを聞き、低姿勢だ。トレーナーのかばんを選手が持つてやっているのをどこかで見た」

——ところで、将来の目標は。

「オリンピックまで、西ドイツのレギョラー・ポジションを守りたい。そのためには節制することだ」

## デュエル選手訪問

たのと、ホテルでレコードを聞いた

それまではニコニコと笑いをまじえて答えていた彼が、この質問の時だけは、えらくかしこまって返答してくれた。

——ところで、本職(?)の話は聞きたい。日本のGKの印象は?

今回の来日では、再三腹痛に悩まされ、スト・コンディションでなかったことを、彼は悔やんでいたそうだが、それはナショナル・プレイヤーとしての自覚というよりも誇りがそうさせるのだから。

「非常に動きが速いし、うまい。福本(大崎電気)はなかでも印象に残った。彼ならヨーロッパのどのGKにも劣らない」

——目についた弱点があったら教えて欲しい。

パンジョーをひき、ボールがめぼつう強く甘いマスクをした外見プレイヤー的な彼だが、来日中になかよくなった北村尚英君(大崎電気)が煙草をすおうとしたのを見つけると大声を出してこう云つたそうだ。『君はナショナルプレイヤーじゃないか。そんなものすつちやいけけないよ……』

「ほとんどの日本のGKは、7MTに対して定位置にいるが、前に飛び出すべきではないか」

——日本の攻撃はどうか

「速いという一語につきる。よくまあ、あれだけ動けるものだ。選手としては木野(立大)、近藤(大崎電気)とあと二、三人



営業三課 / 栗田満夫

チヨダは印刷機材の合理化を推進する  
総合メーカーです。

パーフェクトは夢の印刷機  
(全自動)です。

超薄紙から厚紙まで、忙しい  
人手の足りない工場に大好評。

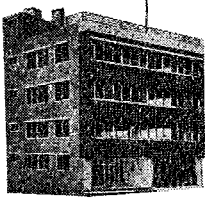


営業一課 / 庄司政雄

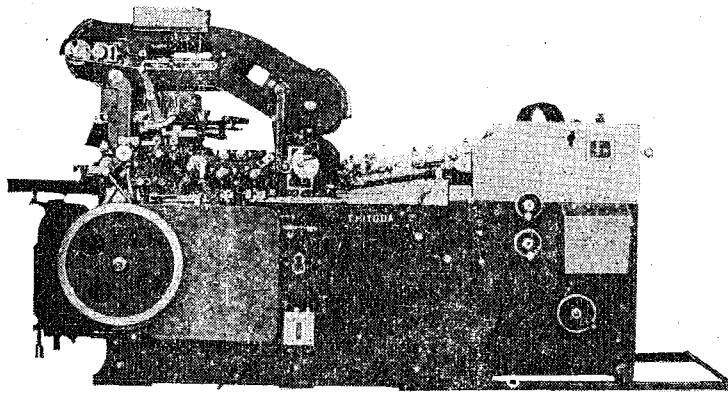


営業三課 / 打林行夫

パーフェクトはたくさんさんの賞  
賛の言葉をいただきました。  
よい製品をつくる励みになり  
ます。



本社新社屋



新製品

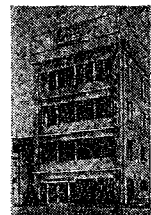
**パーフェクト**

全自動B四截凸版印刷機

8

千代田印刷機製造株式会社  
千代田印刷材料製造株式会社

本社 東京都千代田区神田猿樂町1-4 TEL 東京(292) 2011(代) ~ 8  
横浜支社 横浜市西区高島通り1-7 TEL 神奈川(045) 44-6572・7358・7028  
福岡支社 福岡市御供所町3番16号(聖福寺前) TEL 福岡(28) 3960・0153  
立川工場 東京都昭島市東町1丁目1番地5号 TEL 立川(0425) 2-2470・4383  
九州工場 佐賀県小城郡牛津町(牛津駅前) TEL 牛津 72



横浜支社

# ロングシュートの練習を十分に

訳 藤 本 強

(日本協会常務理事)

先号まではハンドボールの基本の基本ともいえるべき、投・捕・跳・走について触れてきた。

今号では、これらを基礎において、ハンドボールで勝つためにはぜひともマスターしなければならぬ技術——シュート——について触れていくことにする。

7人制ハンドボールでは、従来11人制ハンドボールに比べて、非常に多彩なシュートが見られるようになった。特に数多くのヨーロッパ遠征、ヨーロッパチームの来日に刺激されて、我が国の技術も年々進歩しており、本場のヨーロッパも驚かせるような多彩な技術が駆使されている。

ドイツ面での進歩もこれに一層拍車をかけ、スピード、身のこなしもより磨きをかけられ、トップレベルの技術の向上には眼をみはらせるものがある。ここでは、シュートを基本的なくつかの類型にわけ、とりあげていきたい。

☆ ☆ ☆

ハンドボール競技の中でもっとも重要な技術はシュートである。得点はシュートなしには考えられない。

スピード、正確さ、モーションの早さが個々の重要な要素となつて、シュートが組み立てられている。国際選手ともなれば、これらのどれをとつてみても、すぐれた

技術をもっている。

7人制ハンドボールにおいてはチームの全メンバーがシュートがちやんとできることが必須の条件となってくる。理想的に云うならば、全選手がロングであれ、サイドからであれ、ポストからであれシュートが決められることが必要である。

シュートは次の三種類に分けることができる。

1、ロングシュート

(10、12メートル離れた位置から放つシュート)

2、サイドシュート

(サイドの20度前後の位置から放つシュート)

3、ポストシュート

(ゴール前6、7メートルの位置から放つシュート)

以上はゴールに対する距離もしくは角度はよって分類したものであるが、シュートする体制から、さらに細分して示すことにする。(写真は西独第1・3戦より)

1、ロングシュート

各チームともぜひともマスターしておかなければならないシュートである。単に得点をあげるだけでなく、ドイツを前に出しポストから、サイドから多彩な攻撃をするためにも、ぜひとも決められるように練習しておかなければならない。このシュートの成否

によって、戦術的におおいに異ってくる。あるチームは、このシュートだけで、全得点をたたき出しているチームもある。

イ、ステツプシュート

(写真①参照)

このシュートはまたの名を右右シュートとも呼ぶ。シュートの中でもっとも基本になるシュートである。パスの中でもっとも基本的なシュルダーパスと同様に一番基礎になるものであり、十分練習をつむ必要がある。

シュートの方法は基本的にはシュルダーパスと全く同一である。

右足に体重をかけておいて、左足を踏みだし、体重を左足に移しながら、ボールを投げる。これが基本になる。右足を踏みだしている時にボールをキツチし、続いて左足を踏みだし、シュートをし、右足がついていく形が足の運びとしてはもっとも自然である。

この時、体の向きは走り、もしくは投げる方向に向け、腰のひねりをも加え、ボールに加速する。

投げおわたした時には体は正面を向く。手および指は正しく投げた方向にフオーするようになる。

肩の高さから出すシュートがもっとも基本であるが、手を十分に伸ばして、頭の真上から、腰の高さから、あるいはひざの高さからシュートすることができる。これら投げる位置の高低の変化



## ミカサ ボール

### ハンドボール



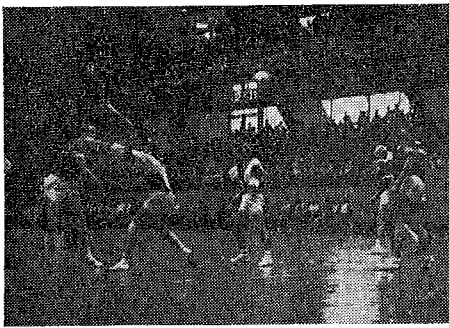
明星ゴム工業株式会社

は実戦の場合、非常に重要になつてくる。バックを置いてシュートする場合には、この高低の変化をつけたりと、いたずらにバックにカットボールを提供するだけになつてしまう。

またボールのコースについても、どの体制からでも、どこにでも投げられるように十分練習しておくことが重要である。

このシュートは基本的なシュートであるが、キヤッチしてすぐ投げる技に習熟した場合実戦において非常に有効なシュートになる。

このシュートは良く練習をつんだ場合には、他のどのようなシュートよりも、キヤッチしてから短い時間でシュートすることができる。このモーションの速さは、バックのホンのちよつとしたスキを



1

つき、またキーパーに構えるひまを与えずにゴールを割ることがしばしばある。しかもバックを前にしてうたれると、キーパーにとっては死角となり、思いもよらぬところからボールが出てくることが多い。

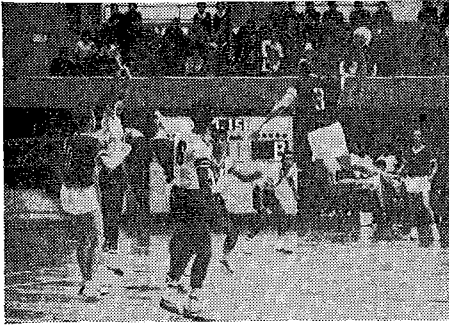
基本的でありながら、きわめて実戦的な技術であり、初心者からベテランに至るまで、十二分の練習をすることが望ましい。

ロ、ジャンプシュート

(写真②参照)

バックを前において、そのバックの頭の上から打つ、10メートル前後のジャンプシュートは試合の時には、非常に重要な得点源となっている。

このシュートは右利きの選手では、左サイドから右に向つて、斜



2

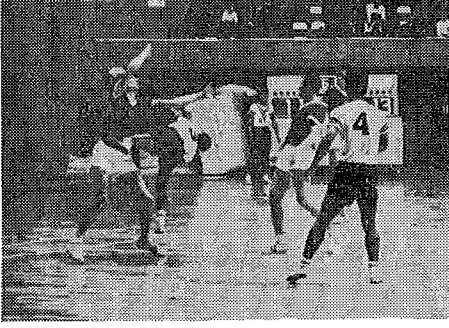
のコースを走り、右足が前に出た時にキヤッチし、ジャンプの準備をしながら左足を踏み出し、軽くまげる。しだいに左足に体重をかける。

右ひざを軽くまげ、右手は出来るだけ高くあげる。そして強く左足によって踏み切る。

左肩はデیفフェンスから、ボールと体を相手から護るような形をとる。

しかし、この際決して左肩を相手に接触させてはいけない、右肩はできるだけ、左肩が前に出るような形をとる。

ある選手はシュートをするかのようなフォームをし、相手をフェイントにかけ、ドリブルして抜いていくことをよくする。これを重要な技術である。



3

ハ、横への倒れこみシュート

(写真③参照)

7人制ハンドボールによって開発されたシュートである。狭いデیفフェンスの間をぬって行なうシュートである。

このシュートはブレイ中にも行うか、同時にフリースローの際にも、多く使われる。

右利きの選手の場合、まず右からシュートするフェイントを行ない、バックを右によせるか、そのままの位置に釘づけしてしまう。

そして、体を左に傾け、手は頭上にもっていき、その位置からボールをシュートする。体は投げた後は左前に倒れこむ。

デیفフェンス側がフェイントによって大きく右に動いている場合には、体はやや左傾する程度ですむが、そのままの位置にいる場合には、体を思いきって左にまげ、体が水平になった瞬間に、ボールをシュートする。この水平になった瞬間をつかみさえすれば、ボールはましがらない、デیفフェンスの右側を通り、ゴールに到達することになる。このシュートは7人制ハンドボールにはなくてはならないものである。

このほか、ロングシュートとしては、バックハンドシュートが時折使われるが、主なのは、先述の三つである。いずれも十二分の練習が必要である。

日本ハンドボール協会検定球



東京

新製品 / チェコ型

タチカラ株式会社



大阪

# 日本ハンドボール界の課題 (5)

三十周年を迎えた球界に望む

鶴岡久雄

(高知協会理事)

光陰矢の如し、過去において軒余曲折があったが、ここに我がハンドボール界も三十周年を迎え諸兄と共に御同慶にたえない。

人間二十才で成人式三十才ともなればあぶらも乗り仕事に対する旺盛な意欲と絶大なエネルギーに満ち溢れた年令でもある今年こそハンドボール界にとって一層の躍進の年であることを祈り乍ら筆を取ります。

思えば敗戦になり急に支えを失った私達は心の糧として二度と婦り来ぬ青春をこのハンドボール競技で送った。先輩の残してくれた数個のドス黒いボールを数少ない部員と共に「我々の魂はこれだ」とボールを追かけ暗くなったグラウンドで汗と涙の練習もつい昨日のように思われる。疲労のあまりに無言で芝生に臥て時を忘れたことも今では楽しい思出の一つである。こうした一見単調な生活が日曜祭日、休暇を問わず二十余年を過ぎ尚統こうとしている、この小さなボールに接することにより斯道の先輩後輩をして教子と人間関係は何ものにもまして貴重な価値

あるものと感謝している。恵まれている現在の青少年諸君も安易な面での妥協を避けこのハンドボール競技を通して技術もさることながら人間完成へと努力の手綱をゆるめることなく精進し全ての人々よりハンドボールマンは紳士の折り紙をつけられることを強く希望するものである。

十六米五十種のアフサイドラインがノーラインとなり更に三十五米ラインと変更された、そのつど技術が歩一歩と前進し一九六一年に男子翌六二年には女子が晴の国際舞台を経験し一躍日本のハンドボール界は目指ましい向上発展を見せ北は北海道から南は沖縄の果まで全国津々浦々にまで普及されたことをハンドボール愛好者と共に喜びたい。でもこれで満足すべきではない。スポーツ界は日進月歩休むことを知らず、むしろこれからハンドボール界にとって茨の道になり本部協会はもとより諸先輩や指導の任に当る方々の各面に渡る指導手腕に期待するところが大きい。

誕生したばかりの地方では小さな生命が今にも消え入りそうに搏動を続けている。本部協会の発足史をみてもその苦勞が忍ばれる陸連の借家住いで少数の先輩諸兄が手弁当で寝食を忘れ滅私的努力の結果現在に至った。地方においても同様経済的に時間的に余裕がなく本務をもつ教員の片手間の仕事にしてはあまりにも荷が重過ぎる。上司には小言、認識の薄い父兄からは白眼視され、家庭からも苦言の連続、ただ愛する教え子の成長を信じればこそ明日への希望が湧き出た。本部協会もこうした地道な地方の指導者に暖かい指導助言を与えて欲しいものである。

何ずれの県でも又何時の時代でも同様高校チームを中心として普及してきた。その土台となる中学校教材にハンドボール競技が除かれたことは全く致命的打撃である。高校新人生にハンドボール部の勧誘が如何にむづかしいか、尚チーム結成には二・三年を要する。陸上、バレー、バスケットボール等他種目は中学時代になじみ深いので随分多人数が入部する。だがことハンドボールとなると手を使用するの手足で操作するのが皆目知らず他部に入部する新人生を横目でみながらズブの人に、しかも一、二年の短期で成長させるのは並大抵の苦勞ではない。ハンドボール競技の普及発達には色々問題があるが、中学校教材にハンドボールが入っていないことが地方発展の最大の隘路であると云っても過言ではあるまい。ハンドボールは走・跳・投と極く初歩的なスポーツ基本の組合せであり、やって面白く見えて楽しい競技である、バスケットボールに似ているが平易で導入しやすい競技であり中学校教材に最適の種目であるのに文部省はこれを探採しない。何故か疑問である。この筋の権威者ももとより本部協会も中学校教材にハンドボール競技が採採されるよう協会面より強力な復活運動を展開するのが最大の急務であろう。

経済面においても他種目より支出が多くこれも問題だがこれは理解が出来、地方の協力態勢も整っているが、今一つ考えなくてはならぬのは指導者不足の解消である。殊に今年に去る九月東京でコーチ講習会が催されたがこうした研究会をブロック別に行い、底辺拡充の意味からも地方の発展に少し視野を向け惜しみなき愛の指導を差し伸ばすことを切に希望する。

日本ハンドボール協会検定球

# モルテン

## 亀甲型 ハンドボール



モルテン工業株式会社

広島・東京・大阪



# 成果あげた多範囲な指導

## 初の公認コーチ講習会終わる

新界はじめての試みとして、その成果が各方面から期待されていた「昭和42年度ハンドボール公認コーチ講習会」は9月25日から29日まで東京・駒沢屋内球技場を会場にして行われた。

講習会に参加したのは全国8ブロックと3組織から推せんされた30名(氏名後掲)であった。

第1日は開講式につづいて、日本協会・荒川清美理事長が国内外の情勢について解説、このなかで「ミュンヘンオリンピックの出場国(男子)は、一九七〇年の第7回世界男子7人制選手権でその一部が決定される可能性がある。オリンピック強化はこの年を目標にしなければならず、あと3年のゆり予しかない。女子の参加については、来日中の西ドイツ役員の言によれば見通しは明かるい」と述



実地指導の説明を聞く受講者(右から二人目)の村田講師  
は徳永日本協会普及部長

べて注目された。

午後は東京教育大学・阿久津邦男教授によって講義「運動の生理」田村紡監督・宇津野年一氏(日本協会普及委員、名古屋大助教授)により研究発表「競技会の出場に備

今回初めて公認コーチ講習会が開催されたが、これに出席して、との希望なので私なりの感想を述べる。旅費を支給し、全国より指導者を一堂に会したことは今までになく、大変な進歩で、受講者も何かを得ようと誠に真剣そのものであった。特に今回は各ブロックより3名の参加であったが、今後、もし許されれば各県より1名の参加が実現できたら、日本協会と地方協会のタテのつながりは一そう密になり講習会内容以上の収穫をともに得ると確信する。資金的な裏づけの確保と実現を望む。

### 講習会の内容について

参加者の立ち場、多少意見のある人もあったが、第1回としては成功だったと思う。荒川理事長のこれからのハンドボールについても、また色々の統計的データをもとにしてのシート経過、あるいはシ

えて行う合宿練習における選手のコンディショニングの変動について」がおよそ2時間にわたって行なわれた。

第2日は実地指導を中心とした講習が行われ、男子については村田弘、勝繁夫、女子については北川浩、細井操(何れも日本協会技術委員)の各氏が担当した。

第3日は、村田、勝野氏による1日の分析なども興味深く、統計的な分析の必要性を痛感、阿久津先生の「ハンドボールの基礎的選手づくりの運動生理学的問題」についてはコーチとして必要な基礎的なもので、特に現場での科学的研究方法は「科学は分析し、コーチが統合する」という意味あいかからも、今後の研究に非常に参考になった。

## 公認コーチ講習会に出席して

藤 田 信 義

全日本女子コーチの宇津野先生の「競技会の出場に備えて行なう合宿時のコンディショニングの変動について」の研究発表もコンディショニング調整はコーチとしての問題点で立派な論文であった。もし許されれば田村紡のトレーニング計画、苦心談も聞きたかった。全日本男子コーチの村田先生のハンドボールの基本技……パス、キ

実技(総合技)指導と、安藤純光(日本協会審判部長)、佐野和夫(日本協会技術・審判委員)の両氏によって審判部門の講義と指導が行われ閉講した。

### 受講者名簿

岡田豊夫、石切山 稔治、新橋満(北海道)、増田学、森恭一(東北)、金原至、青木崇、富祐彬、西島喜代治(北信越)、山野圭三、遠藤健

ヤッチ等より応用技の説明は世界選手権に参加されての各国のプレーをみての卒直な意見も入り、また実技でのボールを扱っての準備運動やトレーニングはなかなか興味があり、受講者もひと汗かき、誠に和やかだった。

勝先生の「立教大のセット・オフフェンス」は初めての公表だけに大いに参考になり、ギリギリのパ

スやステップシートの重要さを再認識させられた。次回には人の動きを主とした攻撃の第一人者・芝浦工大のオフフェンスや立教大、大崎電気などのデフフェンスも8ミリフィルムや16ミリフィルムを使って指導をし、日本全体のレベルアップに一役か

次、磯部浩、北原紀孝(関東)石野誠、渋谷行康(東海)、木村吉延、中井泰彦、岡田茂夫(近畿)川崎秀雄、越智武(四国)、柳井文治、辻一義、藤田信義(中国)島田秀四、荒木時弥、今村孝一(九州)嶋田新太郎、小袋是郎(全国高体連)、田中秀夫(全日本学連)大迫末次(全日本実業団)以上30名。

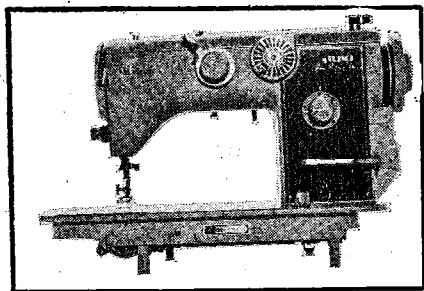
「ワーについて」は現場での経験発表でむずかしい女子選手のトレーニング方法であり、実になる立派な内容の講義だった。

北川先生のドッチボール、ポイントボールからハンドボールに入る段階指導、特に変形ポイントボールは実際に行っても面白く、現場指導に大いにプラスになった。

審判技として、安藤、佐野両先生の審判技のレベルアップ、判定の一貫性なども、公認審判員ばかりの受講なので新審判部の方針も理解できたと思う。

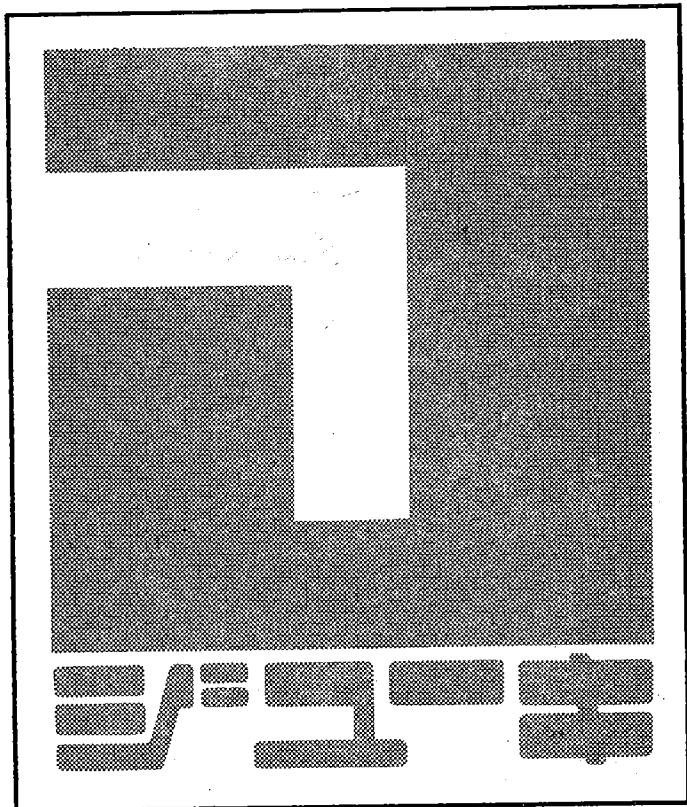
講義の日程を終えたあと、西ドイツ全日本のゲームの観戦した。一九七二年のオリンピックをめぐりて全国一丸となり、兜の緒をしめなおし、普及に、レベルに大いに頑張ろう。終りにのぞみ講師の諸先生がたの熱心なる指導に対しあつく御礼申しあげます(山口協会理事長)

ミシンはマークで  
お選び下さい



HZD-956型

ダイカスト・フルオートジグザグ



 **東京重機工業株式会社**

本社工場 東京都調布市国領町 8丁目 2番地ノ 1電話 (480) 1111番(大代表)

# 秋のシーズン幕開く

## 早大、各部門に快勝

### 対慶大定期戦

秋のシーズン開幕を告げる伝統の第15回早慶定期戦は両校7勝7敗のあとをうけて9月7日午後1時30分から東京・早大記念会堂で行われた。

現役戦は両校応援団をはじめおよそ千人の観衆の盛んな声援のうちに進められたが、早大が立ちあがりのリードをうまく活かして後半の慶大の反撃をおさえ3年ぶりに勝利を飾った。なお高校、OB戦も早大勢が勝った。

▽高校戦(第9回)  
早大学院 16(7-1) 5 慶 応

早大学院は5連勝。対戦成績は早大学院の7勝2敗。

▽OB戦  
稲門ク 26(16-10-3) 15 三田ク(早OB)

稲門クは2連勝。対戦成績は三田クの7勝5敗2引分1中止

▽現役戦  
早 大 23(12-11-0) 16 慶 大

得0 5 2 7 7 1 1 0 0 0  
大 貫 口 野 日 原 田 山 博 島 藤

【早大】水 旗 朝 秋 森 杉 鈴 小 伊  
【慶大】村 上 村 中 椋 村 島 崎

得0 6 3 3 1 2 0 1 0  
大 山 古 川 峯 田 小 植 川 尾

16(1) 7 MT (1) 23

## 各 地 の 記 録

### 全秋田和洋が初優勝

男子は東北学院OB  
第20回東北選手権は9月7日から10日まで青森県宮体育館に東北6県の代表が参加、国体予選を兼ねて開かれた。

男子は、今シーズンも東北学院OB(宮城)が地力を發揮して全勝、T.G.時代から通算5年連続

優勝を飾った。

女子は、最近2連勝の三菱鉛筆(山形・神奈川)が転籍したためクラブチームの優勝争いとなった

が全秋田和洋(秋田)が全岩手をおさえて初優勝した。この大会で秋田代表が優勝したのは初めて。

### 高校女子で八郷優勝

茨城県民総合体育大会(10月・

### 土浦工

▽一般男子準々決勝

全竜ヶ崎 不戦勝 日 製作所立

水戸市 34-7 東洋運搬

自衛隊勝 28-15 土浦市

田A 研究所 16-8 自衛隊勝 田B

▽同準決勝  
研究所 25(13-12-0) 7 全竜ヶ崎

原子力 34(18-16-0) 6 水戸市

自衛隊勝 12(11-1-0) 16 研究所

田A 自衛隊勝 28(12-16-0) 16 研究所

▽同決勝  
自衛隊勝 28(12-16-0) 16 研究所

田A 自衛隊勝 28(12-16-0) 16 研究所

▽同決勝  
自衛隊勝 28(12-16-0) 16 研究所

田A 自衛隊勝 28(12-16-0) 16 研究所

▽同決勝  
自衛隊勝 28(12-16-0) 16 研究所

田A 自衛隊勝 28(12-16-0) 16 研究所

▽同決勝  
自衛隊勝 28(12-16-0) 16 研究所

田A 自衛隊勝 28(12-16-0) 16 研究所

▽同決勝  
自衛隊勝 28(12-16-0) 16 研究所

田A 自衛隊勝 28(12-16-0) 16 研究所

▽同決勝  
自衛隊勝 28(12-16-0) 16 研究所

田A 自衛隊勝 28(12-16-0) 16 研究所

電ヶ崎で市選手権開く  
茨城県・電ヶ崎市に結成されて

いる「電ヶ崎市ハンドボール同好会連盟」はこのほど茨城協会の後援で第1回電ヶ崎市総合選手権(9月24日・電ヶ崎一高)を開き

男子は12チームによる優勝争いの末、東洋運搬機Aが平畑クを破って1位となった。女子は市内東西

対抗として行われ引き分けた。

▽男子決勝トーナメント1回戦(準決勝)

東洋運搬機A 22-15 電ヶ崎機A

平畑ク 15-11 流通経済大

▽同決勝  
東洋運搬機A 23(11-12-0) 18 平畑ク

▽女子東西対抗  
東 軍 4(2-1-1) 4 西 軍

池袋商女子、全勝で優勝

新発足の東京・城北連盟では9月15-17の3日間、井草高で秋季城北地区高校リーグ戦を開き、男子は赤羽商、女子は池袋商がそれぞれ1位となった。

▽男子順位①赤羽商4勝1敗②北園3勝2敗③帝京商工2勝2敗1分(得点率〇・四九)④練馬2勝2敗1分(〇・四三)⑤井草⑥池袋商

▽女子順位①池袋商4戦全勝②井草3勝1敗③赤羽商2勝2敗④鷺宮⑤練馬

日本ハンドボール協会公認



ゴールドスター  
ハンドボール  
シューズ



岡山釣鐘工業株式会社 東京



# 第20回東北高校

第20回東北高校選手権は9月7日から10日までの3日間、青森県営体育館に東北6県の代表男子12校、女子9校が参加して開かれた。

男子は進境いちぢるしい大石田(山形)が、準々決勝で2連勝を狙う盛岡一(岩手)を破った余勢をかけて堂々の初優勝を飾った。この大会で岩手、宮城以外の代表が優勝したのは初めて。

女子は予想通り、全日本高校1位の花巻南(岩手)が、安定した攻守で勝ち進み初優勝した。この大会の女子で岩手代表の優勝は初めて。

なお、この大会をもって、今年度の全国ブロック高校選手権は全部終わった。

▼男子1回戦

大石田 12-6	南会津 (福島)
塩釜 16-11	秋田南 (秋田)
古川工 14-6	岩手 (岩手)
聖光学院 (福島)	東根工 (山形)
25-14	

▼同準々決勝

大石田 15(8-4)	盛岡一 (岩手)
塩釜 20(12-8)	鱈ヶ沢 (青森)
古川工 15(8-4)	青森 (青森)

聖光学院 21(110-11) 17 湯沢 (秋田)

▼同準決勝

大石田 10(7-2) 4 塩釜

聖光学院 21(110-7) 16 古川工

▼同決勝

大石田 19(109-4) 13 聖光学院

▼女子1回戦(1試合)

古川女 11-2 竹田女 (山形)

▼同準々決勝

秋田和洋 10(5-0) 2 古川女 (秋田)

小高農 14(7-5) 13 花巻農 (福島)

涌谷 14(5-2) 5 福島西女 (宮城)

花巻南 11(5-3) 6 大曲 (岩手)

▼同準決勝

小高農 12(7-5) 10 秋田和洋

花巻南 9(6-3) 5 涌谷

▼同決勝

花巻南 12(7-5) 4 小高農

昭和42年度ブロック高校選手権優勝校

【男子】▼北海道 紋別北▼東北 大石田▼関東 明星▼北信越 上田▼東海 桜台▼近畿 洛星▼中国 宇部工▼四国 新居浜工▼九州 大分

【女子】▼北海道 室蘭商▼東北 花巻南▼関東 深谷女▼北信越 小諸商▼東海 名古屋女商▼近畿 精華女▼中国 山陽女▼四国 新居浜商▼九州 大分東

## 地方協会告知板

### 30才以上の大会

#### 愛知協会の新企画

愛知協会では、かねてから検討を進めていた30才以上のプレーヤーによって編成されたチームによる大会を実施することになり、第1回大会を10月31日、11月1日の2日間、名古屋・金山体育館で午後6時から開く。

#### 京都理事長に入江氏

京都協会ではこのほど新役員を次のように決め発表した。

▽会長 木下弥三郎(丸玉観光K社社長)▽副会長 玉城修▽理事 長 入江平三△理事 小西博喜 福井善昭、岩本定男、藤本昇、未政断夫、宮本修、中村貢、田中登司治、吉田博二、藤林治雄▽会計担当理事 藤岡裕子

#### 東京城北連盟が発足

東京都・城北地区ハンドボール連盟がこのほど発足、その役員が発表された。

同連盟の傘下は東京北、板橋、練馬、豊島、文京の5区。連盟活動として春季選手権、秋季リーグ招待試合などが予定されている。

▽会長、宮田豊太郎(都立北園高校長・全国高体連ハンドボール部長)▽副会長 天野敏雄▽常任理事 本堂元規、大門正男、奥田恒夫

#### 福井大と信州大

##### 北信越学連に加盟

北信越学生連盟に、このほど福井大、信州大(長野)の二校が加盟、同学連は5校のリーグ戦を組むことになった。

#### 東北大、まず勝ち名のり

##### 学生界秋季リーグ

秋の各地学生リーグ戦は、10月14日北海道大で開かれた東北・北海道学生選手権を緒戦として、関東、関西、東海などが相ついで熱戦の幕をあけた。

東北・北海道学生(10月14・15日北大)は東北学院大、東北大、岩手大の東北勢3校と北大、釧路教育大の北海道2校の合計5校によるリーグ戦で行われた。

優勝は、春以来、顔合せのたびに激戦を展開していた東北大と東北学院大の両校が全勝で対戦、東北大が押し切って昭和37年秋以来久々の優勝(2回目)を飾った。

#### 国体に沖繩(高校)参加

日本協会では、国体高校女子部に沖繩代表として小椋高が参加すると発表した。国体ハンドボールに沖繩のチームは初出場。

#### 全国評議員会開く

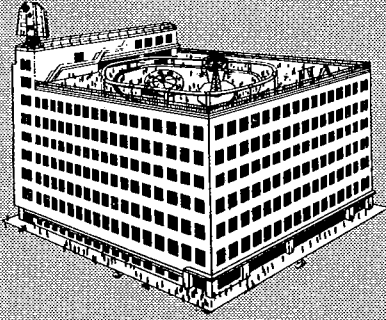
国体時慣例の全国評議員会は10月23日、埼玉県浦和市の「小島」で開かれ、当面する国内、外の課題について協議が行われた(次号詳報)

## 編集後記

○：今号も先号に引き続き西ドイツ特集にしました。記者クラブの方々の肝入りでまた新鮮な原稿で誌面を飾ることができたのは、大変幸です。

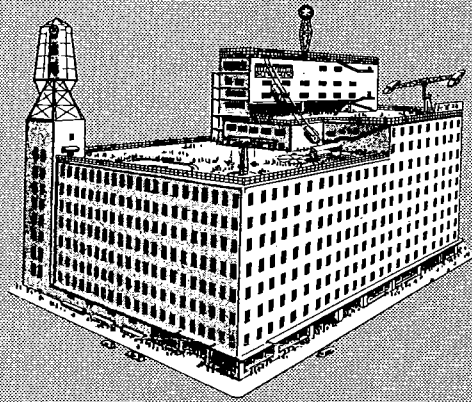
○：気になることがあります。一つはルール解釈のことで、IHFから送付されてくるルール、文書とは異った解釈をドイツ側がもっていることがいくつもあり、これもIHFにはつきり聞かなくてはならないことですが、どうしてこうした食い違いがでてきているか大いに問題になりましょう。もう一つは今回来日したチームの平素の実力がどのへんにあるかということ。『夢の旅行』という面白い文句が西ドイツの雑誌には出ています。日本チームが遠征した場合はかなり違っているのでしょうか。秋のシーズンです。實力を養いましょう。(T.F.)

八代支店



ご家庭に  
幸せをはこぶ  
バラの包装紙

おくりものに  
**大洋の商品券**  
熊本八代両店共通



熊本本店



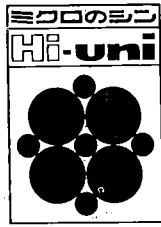
熊本市下通町1丁目3-10

**大洋**

TEL 〈大代表〉 2-1111

# ハイユニ

黒く・濃く・きれいに書ける理想のシン  
 そのヒミツは  
 理想の粒度配合



9H 6B-17 硬度  
 1ダース 1200円 1本 100円



**三菱鉛筆**  
 三菱鉛筆株式会社

日本ハンドボール協会編  
 ハンドボール

第四十八号

昭和四十年六月七日  
 第三種郵便物認可

昭和四十二年十月二十五日印刷  
 昭和四十二年十一月一日發行

發行所

日本ハンドボール協会

東京都中央区神田区三丁目三番  
 電話 大代表 三三三三  
 編集兼 發行人

鈴木達雄 定価百五十円